

2026年度 文学部聴講生

講義要項

(総合教育科目抜粋)

中央大学 文学部

2026.4 - 2027.3

科目名: 哲学

担当教員: 小須田 健

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 木2

配当年次: 1~4年次配当

科目ナンバー: LE-PE1-T001

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:57:2

更新者: AB3757

更新日時: 2025-11-30 18:02:5

授業形式

対面形式で実施する。

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

この講義では、哲学にかかわりのあるさまざまなテーマについて紹介してゆく。

科目目的

哲学のかかわる領域の広さと多様性を理解してもらいたい。

到達目標

現代哲学の主要な概念や理論について概略的に説明できる程度までの理解を得ること。

授業計画と内容

- 第1回 哲学のはじまり
- 第2回 フェミニズム(1)
- 第3回 フェミニズム(2)
- 第4回 原子力の問題(1)
- 第5回 原子力の問題(2)
- 第6回 原子力の問題(3)
- 第7回 原子力の問題(4)
- 第8回 仏教(1)
- 第9回 仏教(2)
- 第10回 仏教(3)
- 第11回 資本主義(1)
- 第12回 資本主義(2)
- 第13回 環境倫理(1)
- 第14回 環境倫理(2)

※ 講義の内容や順序は必要に応じて多少の変更もありうる。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業内で紹介した文献は各自で読んでもらいたい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 70% 授業内で得た知識を活かしたうえで、自らの頭で考え抜いた論述を高く評価する。
- レポート 0%
- 平常点 30% リアクションペーパーの内容や講義内における質問等の積極性を評価する。

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリックカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

『哲学の解剖図鑑』小須田健 エクスナレッジ 978-4767826684
『哲学大図鑑 第2版』マーカス・ウィークス 三省堂 978-4385162539
いずれも参考文献として挙げておく。
・参考文献については授業内で適宜紹介する。
・参考文献については授業内で適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：倫理学**担当教員：寺本 剛**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：他

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-PE1-T002

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:2

更新者：AA1330

更新日時：2025-11-17 17:10:1

授業形式

この科目はオンライン形式で行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

倫理は一人一人の人間の生き方や社会全体の在り方を大きく左右する重要なものであるが、それがどのようなものなのかを理解するのは容易ではないし、これまでの歴史の中で倫理について説明する完璧な学説が存在したわけでもない。こうした前提認識のもと、西洋の倫理学の主要な学説を概説し、それぞれの考え方の本質を明らかにした上で、各学説に対して批判的な検討を加えていく。各回に様々なタイプのアクティブラーニングに取り組むことで、諸学説の内容の理解度を確認するとともに、「倫理的に考える」方法を身につける。

科目目的

この科目は、学位授与の方針で示されている「卒業するにあたって備えるべき知識・能力・態度」のうち、以下の能力を養うことを目的とする。

- ・専門的学識：各専攻の学問分野において求められる専門的な知識を備えている。
- ・幅広い教養：多種多様な科目から得られた幅広い教養を身に付けている。
- ・複眼的思考：専門的学識と幅広い教養を併せ持つことにより、複眼的に思考し、多様な社会に柔軟に対応することができる。
- ・コミュニケーション力：自分の考えを相手に伝え、理解を得るとともに、相手の考えを理解することができる。

到達目標

- ・西洋哲学において主題として扱われてきた倫理学の基本的な概念や学説について、適切なボキャブラリーを使って、説明できるようになる。
- ・社会や日常生活において生じている諸問題を、倫理の観点から分析し、その結果を適切なボキャブラリーを使って、説明できるようになる。

授業計画と内容

- ① イントロダクション：倫理とは何かー暫定的な見取り図（動画配信型）
- ② 功利主義・義務論・徳倫理学（動画配信型）
- ③ 道徳感情論（動画配信型）
- ④ 社会契約論（動画配信型）
- ⑤ 正義論（動画配信型）
- ⑥ ケアの倫理（動画配信型）
- ⑦ フェミニスト倫理学（動画配信型）
- ⑧ 現象学的倫理学（動画配信型）
- ⑨ 善き生・幸福（動画配信型）
- ⑩ 自由（動画配信型）
- ⑪ 自律と尊厳（動画配信型）
- ⑫ 責任（動画配信型）
- ⑬ 公共（動画配信型）
- ⑭ 総括：倫理的に考えるということ（動画配信型）

* 毎週月曜日までには講義動画をmanabaに掲載するので、それを視聴し、その週の金曜日までに小レポート課題を提出する。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

講義の内容に関連して具体的な事例を使ったアクティブラーニングを行う。それに対して受講者はmanabaのアンケート機能を通じて自分なりの回答を提出する。次回の講義においてその回答を紹介しながら、適切な考え方や回答の仕方についてフィードバックを行う。本講義の理解を深めるために、積極的に回答を提出することが求められる。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	100%	・第2回～第13回の講義では、アクティブラーニングの成果を小レポートとして提出し、それを1回につき5点満点で評価する。(5点×12回=60点) ・期末レポートは40点満点で評価する。 *小レポートや期末レポートは、各回に学んだ学説の適切な理解を踏まえて考察がなされているかどうか、また、その考察が適切なボキャブラリーを使って表現されているかどうかで評価される。
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

各回のテーマについての理解度の確認と向上のため、具体的な事例について考察する。manabaのアンケート機能等を通じて提出された小レポートにコメントすることで、どのような考え方や答え方が適切であるかをフィードバックする。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manaba等を利用して受講者との情報交換を行う。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書として以下の書籍を使用する。

書名:『倫理学 改訂版:3ステップシリーズ』
編者:神崎宣次・佐藤静・寺本剛
出版社:昭和堂

シリーズ名・ナンバー:3STEP シリーズ 5
ISBN : 9784812224267

*電子書籍も利用できます。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。この科目は教職(社会、公民)の必修科目です。

科目名：倫理学**担当教員：寺本 剛**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：他

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-PE1-T002

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:2

更新者：AA1330

更新日時：2025-11-17 17:10:3

授業形式

この科目はオンライン形式で行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

倫理は一人一人の人間の生き方や社会全体の在り方を大きく左右する重要なものであるが、それがどのようなものなのかを理解するのは容易ではないし、これまでの歴史の中で倫理について説明する完璧な学説が存在したわけでもない。こうした前提認識のもと、西洋の倫理学の主要な学説を概説し、それぞれの考え方の本質を明らかにした上で、各学説に対して批判的な検討を加えていく。各回に様々なタイプのアクティブラーニングに取り組むことで、諸学説の内容の理解度を確認するとともに、「倫理的に考える」方法を身につける。

科目目的

この科目は、学位授与の方針で示されている「卒業するにあたって備えるべき知識・能力・態度」のうち、以下の能力を養うことを目的とする。

- ・専門的学識:各専攻の学問分野において求められる専門的な知識を備えている。
- ・幅広い教養:多種多様な科目から得られた幅広い教養を身に付けている。
- ・複眼的思考:専門的学識と幅広い教養を併せ持つことにより、複眼的に思考し、多様な社会に柔軟に対応することができる。
- ・コミュニケーション力:自分の考えを相手に伝え、理解を得るとともに、相手の考えを理解することができる。

到達目標

- ・西洋哲学において主題として扱われてきた倫理学の基本的な概念や学説について、適切なボキャブラリーを使って、説明できるようになる。
- ・社会や日常生活において生じている諸問題を、倫理の観点から分析し、その結果を適切なボキャブラリーを使って、説明できるようになる。

授業計画と内容

- ① イントロダクション:倫理とは何かー暫定的な見取り図(動画配信型)
- ② 功利主義・義務論・徳倫理学(動画配信型)
- ③ 道徳感情論(動画配信型)
- ④ 社会契約論(動画配信型)
- ⑤ 正義論(動画配信型)
- ⑥ ケアの倫理(動画配信型)
- ⑦ フェミニスト倫理学(動画配信型)
- ⑧ 現象学的倫理学(動画配信型)
- ⑨ 善き生・幸福(動画配信型)
- ⑩ 自由(動画配信型)
- ⑪ 自律と尊厳(動画配信型)
- ⑫ 責任(動画配信型)
- ⑬ 公共(動画配信型)
- ⑭ 総括:倫理的に考えるということ(動画配信型)

*毎週月曜日までには講義動画をmanabaに掲載するので、それを視聴し、その週の金曜日までに小レポート課題を提出する。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

講義の内容に関連して具体的な事例を使った思考実験を行う。それに対して受講者はmanabaのアンケート機能等を通じて自分なりの回答

を提出する。次回の講義においてその回答を紹介しながら、適切な考え方や回答の仕方についてフィードバックを行う。本講義の理解を深めるために、積極的に回答を提出することが求められる。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	100%	・第2回～第13回の講義では、アクティブラーニングの成果を小レポートとして提出し、それを1回につき5点満点で評価する。(5点×12回=60点) ・期末レポートは40点満点で評価する。
		※小レポートや期末レポートは、各回に学んだ学説の適切な理解を踏まえて考察がなされているかどうか、また、その考察が適切なボキャブラリーを使って表現されているかどうかで評価される。
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

各回のテーマについての理解度の確認と向上のため、具体的な事例について考察する。manabaのアンケート機能等を通じて提出された小レポートにコメントすることで、どのような考え方や答え方が適切であるかをフィードバックする。

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manaba等を利用して受講者との情報交換を行う。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書として以下の書籍を使用する。

書名:『倫理学 改訂版:3ステップシリーズ』
編者:神崎宣次・佐藤静・寺本剛
出版社:昭和堂
シリーズ名・ナンバー:3STEP シリーズ 5

ISBN : 9784812224267

* 電子書籍も利用できます。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。この科目は教職(社会、公民)の必修科目です。

科目名： 社会思想／社会思想A**担当教員： 中村 勝己**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 月3

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-PE1-T003

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:2

更新者：AC5502

更新日時：2026-01-16 12:35:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

前半6回の講義で18世紀末に起きたフランス革命(1789年)にはじまり、19世紀半ばに起きた1848年革命の直前までの西ヨーロッパの社会思想の歴史について講義する。具体的には、カント(プロイセン＝独)、アダム・スミス(スコットランド＝英)、ヘーゲル(プロイセン＝独)という3人の思想家を中心に講義する。

後半6回で19世紀半ばに生じたヨーロッパ規模での1848年革命から、パリ・コミューン(1871年)、世紀末ウィーンの社会、第一次世界大戦(1914-1918年)、ロシア革命(1917年)、ドイツ革命(1918年)、ドイツにおけるナチスの政権掌握(1933年)までの歴史の流れを背景にして、マルクス(プロイセン＝独)、マックス・ヴェーバー(プロイセン→ヴァイマル共和国＝独)、ジークムント・フロイト(オーストリア)の思想を解説し、彼らの著作の抜粋を読んでいく。

20世紀の後半以降、彼らの思想がどのように受容され、批判されたのかについても説明し、21世紀の今日に彼らの思想を再読する意味について一緒に考えてみたい。

科目目的

19世紀と20世紀の西欧の社会思想の古典を読む作業を通じて、現代の思想や学問で議論されているテーマの前提を理解できるようにすることが目的である。

到達目標

毎回まじめに授業に臨み、教員の問いかけに積極的に応答できるようになること。

授業計画と内容

- 1 導入——カントの社会思想(1)「啓蒙とは何か」を読む
- 2 カントの社会思想(2)『人倫の形而上学の基礎づけ』を読む
- 3 スミスの社会思想(1)『道徳感情論』について
- 4 スミスの社会思想(2)『国富論』について
- 5 ヘーゲルの社会思想(1)『歴史哲学講義』——ナポレオンの時代
- 6 ヘーゲルの社会思想(2)『法哲学講義』——人倫とはなにか
- 7 まとめ
- 8 マルクスの社会思想(1)ハイデガーズ・チルドレンのマルクス論を読む
- 9 マルクスの社会思想(2)1848年革命と資本主義論
- 10 ヴェーバーの社会思想(1)呪術からの解放とは何か
- 11 フロイトの社会思想(1)『ヒステリー症例』を読む
- 12 フロイトの社会思想(2)文明の起源にある抑圧
- 13 ヴェーバーの社会思想(2)「鉄の檻」のゆくえ
- 14 まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	35% 35点
レポート	35% 35点
平常点	30% 15ポイント × 2点 = 30点
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

新学術(2024年度)も、中間と期末にレポート提出を課すことにする。内容は、中間のレポート課題が前半6回の講義に関するもの、期末のレポート課題が後半6回の講義に関するものとなる予定である。

毎回授業に出席して、質問なりコメント(感想)を出してもらおう。そうしてくれた学生に限り出席調査票を渡して出席扱いとする。

配点は、1回目目のレポート課題で35点、2回目目のレポート課題で35点、毎回のコメントで2点 × 15回の授業で30点、合計100点である。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 ディスカッション、ディベート
 グループワーク
 プレゼンテーション
 実習、フィールドワーク
 その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
 タブレット端末
 その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

毎回プリントを授業支援システム(C plus, manaba)にアップロードする。

教科書はなし

参考書はプリントの末尾に参考文献を毎回挙げる。例えば、以下の通りである。

G・アリギ『北京のアダム・スミス——21世紀の諸系譜』中山智香子監訳、作品社
安藤英治(聞き手)『回想のマックス・ウェーバー』亀嶋庸一編、今野元訳、岩波書店
稲葉振一郎『「資本」論——取引する身体／取引される身体』ちくま新書
奥村宏『会社はどこへ行く』NTT出版
加藤尚武『現代倫理学入門』講談社学術文庫
川本隆史『現代倫理学の冒険』創文社
カント『道徳形而上学の基礎づけ』中山元訳、光文社古典新訳文庫
カント『人倫の形而上学』加藤新平ほか訳、『世界の名著39』所収、中央公論社
カント『永遠平和のために／啓蒙とは何か 他三篇』中山元訳、光文社古典新訳文庫
カント『理論と実践』、『啓蒙とは何か 他四篇』篠田英雄訳、岩波文庫所収
カント『人間学』坂田徳男訳、岩波文庫
カント『永遠平和のために／啓蒙とは何か 他三篇』中山元訳、光文社古典新訳文庫
栗木安延『アメリカ自動車産業の労使関係——フォーダイズムの歴史的考察[改訂版]』社会評論社
クリスタ・クリューガー『マックス・ウェーバーと妻マリアンネ』徳永恂ほか訳、新曜社
マーティン・グリーン『リヒトホーフエン姉妹』塚本明子訳、みすず書房
——『真理の山』進藤英樹訳、平凡社
坂部恵『人類の知的遺産43カント』講談社
マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』鬼澤忍訳、ハヤカワ文庫
アダム・スミス『道徳感情論』村井章子・北川知子訳、日経BP社
アダム・スミス『国富論』水田洋・杉山忠平訳、岩波文庫
スミス『法学講義』水田洋訳、岩波文庫
アマルティア・セン『経済学の再生』徳永澄憲ほか訳、麗澤大学出版会
田中正司『市民社会観』、田村秀夫・田中浩(編集代表)『社会思想事典』中央大学出版部
フレデリック・W・テイラー『新訳 科学的管理法』有賀裕子訳、ダイヤモンド社
W・L・テラー『ハチスン・ヒューム・スミス』山口正春・川又祐訳、三恵社
土井崇弘『自生的秩序』、森村進 編著『リバタリアニズム読本』勁草書房 所収
F・A・ハイエク『隷属への道』西山千明訳、春秋社
ハーバマス『公共性の構造転換[第二版]』細谷貞雄・山田正行訳、未来社
ハーバマス『他者の受容』高野昌行訳、法政大学出版局
長谷川貴彦『産業革命:世界史リブレット116』山川出版社
ハリー・ブレイヴァマン『労働と独占資本』富沢賢治訳、岩波書店
G・ベッカー『人的資本』佐野陽子訳、東洋経済新報社
ホブズ『リヴァイアサン』水田洋訳、岩波文庫
水田洋『アダム・スミス——自由主義とは何か』講談社学術文庫
森村進『最小国家』、森村進 編著『リバタリアニズム読本』勁草書房 所収
ハンス・ライス『カントの政治思想』樽井正義訳、芸文出版
ルソー『社会契約論／ジュネーブ草稿』中山元訳、光文社古典新訳文庫
ロック『統治二論』加藤節訳、岩波文庫
ジョン・ロールズ『正義論』川本隆史・福岡聡・神島裕子訳、紀伊國屋書店
ホルクハイマー、アドルノ『啓蒙の弁証法』徳永恂訳、岩波文庫
竹中幸使『図説 フランス革命史』河出書房新社
アレクサンドル・コジェーヴ『ヘーゲル読解入門『精神現象学』を読む』上妻精・今野雅方訳、国文社
中壘『ヘーゲル』中公新書
林健太郎編『ドイツ史(増補改訂版)』山川出版社
廣松渉編『世界の思想家12 ヘーゲル』平凡社
フランシス・フクヤマ『歴史の終わり』上下、渡部昇一訳、三笠書房
ヘーゲル『歴史哲学講義』上下、長谷川宏訳、岩波文庫
ヘーゲル『ヘーゲル書簡集』小島貞介訳、日清堂書店
マックス・ヴェーバー『宗教社会学論選』大塚久雄・生松敬三訳、みすず書房
——『世界宗教の経済倫理——序論・中間考察』中山元訳、日経BP社
マリアンネ・ヴェーバー『マックス・ヴェーバー』大久保和郎訳、みすず書房
エドゥアルト・バウムガルテン『マックス・ヴェーバー』生松敬三訳、福村出版
アーサー・ミッツマン『鉄の檻——マックス・ヴェーバー——一つの人間劇』安藤英治訳、木鐸社
アルベルト・メルツァー『現在に生きる遊牧民(ノマド)』山之内靖ほか訳、岩波書店
上山安敏『神話と科学 ヨーロッパ知識社会 世紀末～20世紀』岩波書店
フロイト『文化への不満』、『幻想の未来／文化への不満』中山元訳、光文社古典新訳文庫
アーネスト・ジョーンズ『フロイトの生涯』竹友安彦・藤井治彦訳、紀伊國屋書店
マルクーゼ『エロスの文明』南博訳、紀伊國屋書店
ジークムント・フロイト『自叙・精神分析』生松敬三訳、みすず書房
フロイト『ヒステリー研究』懸田克躬訳、『フロイト著作集』第7巻、人文書院
ブローアー＝フロイト『ヒステリー研究(初版)』金関猛訳、中公クラシックス
チャールズ・ライクロフト『精神分析学辞典』山口泰司訳、河出書房新社
安藤英治『マックス・ヴェーバー 人類の知的遺産62』講談社
マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』中山元訳、日経BP社
久米あつみ『カルヴァン 人類の知的遺産28』講談社
小泉 徹『世界史リブレット27 宗教改革とその時代』山川出版社
日本基督教改革派教会／信条翻訳委員会訳『ウェストミンスター信仰告白』新教出版社
三島憲一『訳者解説』、ハーバマス＝ラッツィンガー『ポスト世俗化時代の哲学と宗教』岩波書店
山之内靖『マックス・ヴェーバー入門』岩波新書
八木谷涼子『知って役立つキリスト教大研究』新潮OH! 文庫
朝倉文市『世界史リブレット21 修道院にみるヨーロッパの心』山川出版社
安藤英治『マックス・ヴェーバー 人類の知的遺産62』講談社
安藤英治(聞き手)『回想のマックス・ウェーバー』亀嶋庸一編、今野元訳、岩波書店
マックス・ヴェーバー『宗教社会学論選』大塚久雄・生松敬三訳、みすず書房
——『世界宗教の経済倫理——比較宗教社会学の試み 序論・中間考察』中山元訳、日経BP社
——『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』中山元訳、日経BP社
マリアンネ・ヴェーバー『マックス・ヴェーバー——一つの生涯』大久保和郎訳、みすず書房
ニーチェ『ツァラトゥストラ』上、吉沢伝三郎訳、ちくま学芸文庫

ダニエル・ベル『資本主義の文化的矛盾』(上) 林雄二郎訳、講談社学術文庫
八木谷涼子『知って役立つキリスト教大研究』新潮OH! 文庫
荒井章三・森田雄三郎『ユダヤ思想』大阪書籍
鈴木輝二『ユダヤ・エリート——アメリカへ渡った東方ユダヤ人』中公新書
成瀬治・黒川康・伊東孝之『ドイツ現代史』山川出版社
マルクーゼ『初期マルクス研究』良知力・池田優三共訳、未来社
レーヴィット『ウエーバーとマルクス』柴田治三郎・脇圭平・安藤英治訳、未来社
アーレント『革命について』志水速雄訳、ちくま学芸文庫
リチャード・ウォーリン『ハイデガーの子どもたち』村岡晋一・小須田健・平田裕之訳、木田元解説、新書館
マルクス=エンゲルス『共産党宣言・共産主義の諸原理』水田洋訳、講談社学術文庫
マルクス=エンゲルス『新訳 共産党宣言——初版ブルクハルト版(1848年)』的場昭弘訳、作品社
井村喜代子「世界市場の大暴風雨」、杉原四郎・佐藤金三郎編『資本論物語』有斐閣
河野健二『現代史の幕あけ——ヨーロッパ1848年——』岩波新書
田畑 稔『増補新版 マルクスとアソシエーション』新泉社

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： イスラーム概説**担当教員： 飯塚 正人**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 月4

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-PE1-T004

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:2

更新者：AD1161

更新日時：2026-01-10 12:18:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

アジアから北アフリカにまで及ぶ「東洋」に暮らす人々の大半が自分または隣人・隣国の問題として日常的に意識しており、「東洋」の広い範囲に共通の特徴を与えているイスラームとムスリムについて学習し、現代イスラーム世界の国々の政治経済や社会生活におけるイスラームの影響力・位置を含めて考察する。

科目目的

この科目は、カリキュラム上の総合教育科目として位置づけられていることから、学生がこの科目での学習を通じて、世界人口の約4分の1を占めるイスラーム教徒(ムスリム)の国々の政治経済や社会生活におけるイスラームの影響力・位置に対する認識を深めるとともに、イスラームの教えそのものに対する基礎的な知識を習得することを目的としています。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- ・イスラーム信仰の基本とその多様な展開について第三者に解説できるようになること。
- ・現代イスラーム世界の国々の政治経済や社会生活におけるイスラームの影響力・位置を論理的に説明できるようになること。

授業計画と内容

- 第1回 イントロダクション:イスラームとムスリムが誤解されやすい理由
- 第2回 聖典クルアーンの思想
- 第3回 預言者ムハンマドの前半生
- 第4回 預言者ムハンマドの後半生
- 第5回 イスラーム世界の拡大とハワリージュ派の出現
- 第6回 シーア派の成立と展開
- 第7回 ウラマーとイスラーム法学
- 第8回 スーフィズム(イスラーム神秘主義)とスーフィー教団
- 第9回 近代化への3つの道と「原理主義国」サウディアラビア
- 第10回 アイデンティティ複合とトルコの「世俗主義」
- 第11回 現代における「イスラーム原理主義」
- 第12回 イスラーム法学におけるジハード論とアルカーイダ、ISIL
- 第13回 ムスリムの冠婚葬祭と日常生活
- 第14回 総括・まとめ・到達度確認

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	70%	イスラームについての基礎知識を理解したうえで、ムスリムの歴史と現在を論理的・客観的な観点から説明できるかどうかを評価します。
レポート	0%	
平常点	30%	毎回の授業後の課題提出状況を基準とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

特定のフィードバックは行わないが、授業時間内に理解が進むよう工夫する。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 ディスカッション、ディベート
 グループワーク
 プレゼンテーション
 実習、フィールドワーク
 その他

✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
 タブレット端末
 その他

✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

✓ はい
 いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。
 参考文献は、飯塚正人『現代イスラーム思想の源流』、山川リブレット、2008年。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 日本の思想の歴史／日本倫理思想史A

担当教員: 米田 達也

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 月4

配当年次: 1～4年次配当

科目ナンバー: LE-PE1-T008

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:57:2

更新者: AB3054

更新日時: 2026-01-06 13:49:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本の思想は、常に先進的な外来思想(前近代では主に中国思想、近代以降は西洋思想)を選択的に受け入れながら、それに一定の変容を施し修正することで形成されてきました。何が変容を惹き起こすコアな要因になるのか、さまざまな議論がありますが、いずれにしても、ある種の変容を受けて歴史的に根づいた思想にこそ、日本的な独自の「個性」が認められることは確かでしょう。

授業では、そうした日本の「個性」を表現する豊かな思想のうち、私たちのものの見方や考え方に深く持続的な影響を及ぼしているものを、古代から明治近代までのスパンで取り上げてみようと思います。それらはみな、伝統的な価値観の基層に関わる思想であり、その考察を通して、日本人の思惟様式にみる「特殊」と「普遍」のかたちの一端が明らかになるはずです。

科目目的

この科目は、総合教育科目群・共通科目に位置づけられています。

したがって、この授業での学習を通して、「幅広い教養」と「複眼的思考」を身につけることにより、現代社会における多様な問題や変化に、的確かつ柔軟に対応するための「しなやかで強い」知性を養うことを目的とします。

到達目標

- ①日本における基層的な価値観の系譜を見定め、日本人の思考と行動の特徴的な様式を理解すること。
- ②現代における思想や倫理をめぐる諸問題に対処するための、伝統をふまえた俯瞰的な視座を養うこと。

授業計画と内容

- 第1回 はじめに: 日本の思想の深みへ
- 第2回 日本神話のコンプレックス: スサノヲ神話を読む
- 第3回 「言霊」の圏域: 『万葉集』から『古今集』仮名序へ
- 第4回 「無常」のかたち: 西行と鴨長明にみる無常観の位相
- 第5回 越境するアニミズム: 草木成仏論と「自然」について
- 第6回 語りえぬものを「語る」: 空海と道元の言語思想
- 第7回 武家社会における法の精神: 北条泰時の「道理」と御成敗式目
- 第8回 顕冥あやなす歴史の文法: 『愚管抄』の「道理」史観
- 第9回 演技する実存の自覚: 夢幻能と世阿弥の能芸論
- 第10回 正統キリストの逆説: 不干斎ハビアン思想
- 第11回 消費される愛の臨界: 近松門左衛門の「義理」と悲劇について
- 第12回 「日本」と感性のファシズム: 本居宣長の「もののあはれ」論
- 第13回 武士道の黄昏: 近代国民道徳の誕生と『武士道』について
- 第14回 まとめ: 日本の思想の「個性」とは何か

※ 上記の内容は、都合により変更する場合もあるので、予めご了承ください。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

①授業前: manabaで、講義用プリントを予めダウンロードして事前に読み込み、講義の概要を理解するよう努めること。その際、各項目のキーワードを重点的に確認しながら、テーマの論点を整理しておくこと。

②授業後:講義で指摘された重要事項やわからない語句の意味を必ずチェックするとともに、テーマの問題を自分の視点でとらえ直し、講義内容の理解度を深めるようにすること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	日本の思想に関する基本知識を理解できた上で、授業で取り上げた各種のテーマを独自の観点から整理して論じられるかどうかを評価します。
レポート	0%	
平常点	40%	毎回、授業の内容に関する課題を200文字程度で作成し、授業終了後に提出してもらいます。評価のポイントは、授業で扱った重要事項が正しく理解できているかであり、この課題提出が、出席確認を兼ねることになります。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

成績(単位)評価の前提条件:出席率が60%に満たない者(公欠届またはそれに準ずる書類の提出、あるいは正当な事由の申告があれば、出席扱いにする)、課題を4回以上提出しない者については、E判定とします。

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

随時メール等にて質問を受け付け、解答する。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用しません。授業では、テーマごとに関連するレジュメ等を資料として配布します。

参考文献

- ・末木文美士『日本思想史』岩波書店 2020年(岩波新書)ISBN:978-4-00-431821-7
- ・和辻哲郎『日本精神史研究』岩波書店 1992年(岩波文庫)ISBN:4-00-331447-6

それ以外は必要があれば、授業で適宜、そのつど紹介・指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

授業は一話完結ではなく、系統的につながりのある内容を関連づけて順次説き明かしていくので、前回の内容を踏まえたうえでの展開になります。
したがって、できるだけ毎回継続して意欲的に出席しなければ、授業の理解や課題の作成に支障をきたすのは必至です。単位認定の選考（評価）基準は、例外なく厳格に適用するので、単位の取得は難しくなると考えて下さい。

参考URL

備考

科目名: 日本の美学／日本倫理思想史B

担当教員: 米田 達也

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 月4

配当年次: 1～4年次配当

科目ナンバー: LE-PE1-T009

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:57:2

更新者: AB3054

更新日時: 2026-01-08 12:33:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本人の美意識って、どんな感じなのだろう。たとえば、西欧における古典主義の美学では、壮大で力強く幾何学的に整った形など、対象がそなえる性質に合理的な「美」を見るのに対して、日本人はどちらかというと、小さく清らかで繊細なものに直観的な「美」を感じるらしい。そして何よりも、「美」とは対象がもつ性質にあるのではなく、そうした性質に触発された「心」が想像(創造)するイメージにこそ存在するというのが、日本人に共有される「美のかたち」の基本認識だと、ひとまずは理解してもよさそうです。

授業では、このような「美のかたち」を表現する日本独自の美的理念(「みやび」や「幽玄」など)を取り上げ、それらが含意する豊かで多彩な内実をたぐり寄せることによって、日本人が長い時間をかけて研ぎ澄ましてきた美意識の特徴を、その一端なりともあぶり出してみたいと思います。そこはかたない面影、移ろいゆくはかなさ、不可視なものがあらわれる一瞬のきらめき、そこに魅了された先人たちの、そして私たちの感知する美的な感動の本質とは何か、が探索してゆく考察の過程を通して次第に明らかになってくるはずです。

科目目的

この科目は、総合教育科目群・共通科目に位置づけられています。したがって、この授業での学習を通して、「幅広い教養」と「複眼的思考」を身につけることにより、現代社会における多様な問題や変化に、的確かつ柔軟に対応するための「しなやかで強い」知性を養うことを目的とします。

到達目標

この科目では、以下の目標への到達を目指します。

- ①日本に独自の美的理念を歴史的な系譜に基づき解析することによって、今に生きる私たちにまで繋がる日本人の美意識の特徴を理解する。
- ②日本人が周囲の自然や人々に関わり合う中で育んできた「美のかたち」を認識し、日常的な些事の真只中に豊かな価値を切り拓くための視座を身につける。

授業計画と内容

- 第1回 はじめに:日本人の美意識の特徴について
- 第2回 「みやび」と色好み:王朝貴族と恋愛美の理念
- 第3回 「幽玄」と艶:歌論における美の系譜
- 第4回 「幽玄」と花:世阿弥の美学
- 第5回 「わび」と数寄:娑婆羅から市中の隠へ
- 第6回 「わび」茶の理想:千利休の美学
- 第7回 「さび」と風雅:松尾芭蕉の美学
- 第8回 「もののあはれ」の啓示:本居宣長の美学
- 第9回 「いき」の仕掛け:江戸前の美意識
- 第10回 退廃のエロス:「悪」と「醜」の美学
- 第11回 日本美の再発見:岡倉天心の「理想」
- 第12回 美の宗教とは何か:柳宗悦と「用の美」
- 第13回 「かわいい」の相貌:アップデートする美意識
- 第14回 総括・まとめ

※ 上記の内容は、都合により変更する場合もあるので、予めご了承ください。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ①授業前:manabaで、講義用プリントを予めダウンロードして事前に読み込み、講義の概要を理解するよう努めること。その際、各項目のキーワードを重点的に確認しながら、テーマの論点を整理しておくこと。
 ②授業後:講義で指摘された重要事項やわからない語句の意味を必ずチェックするとともに、テーマの問題を自分の視点でとらえ直し、講義内容の理解度を深めるようにすること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	日本の美学に関する基本知識を理解できた上で、授業で取り上げた各種のテーマを独自の観点から整理して論じられるかどうかを評価します。
レポート	0%	
平常点	40%	毎回、授業の内容に関する課題を200文字程度で作成し、授業終了後に提出してもらいます。評価のポイントは、授業で扱った重要事項が正しく理解できているかであり、この課題提出が、出席確認を兼ねることになります。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

成績(単位)評価の前提条件:出席率が60%に満たない者(公欠届またはそれに準ずる書類の提出、あるいは正当な事由の申告があれば、出席扱いにする)、課題を4回以上提出しない者については、E判定とします。

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

随時メール等にて質問を受け付け、解答する。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用しません。授業では、テーマごとに関連するレジュメ等を資料として配布します。

参考文献

- ・ドナルド・キーン『日本人の美意識』中央公論新社 1999年(中公文庫)
ISBN:4-12-203400-0
- ・高階秀爾『増補 日本美術を見る眼』岩波書店 2009年(岩波現代文庫)
ISBN:978-4-00-602158-0

- ・田中久文『日本美を哲学する』青土社 2013年 ISBN:978-4-7917-6721-2
- ・矢島新『日本美術の核心』筑摩書房 2022年(ちくま新書) ISBN:978-4-480-07460-7

それ以外は必要があれば、授業で適宜、そのつど紹介・指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

授業は一話完結ではなく、系統的につながりのある内容を関連づけて順次説き明かしていくので、前回の内容を踏まえたうえでの展開になります。

したがって、できるだけ毎回継続して意欲的に出席しなければ、授業の理解や課題の作成に支障をきたすのは必至です。単位認定の選考(評価)基準は、例外なく厳格に適用するので、単位の取得は難しくなると考えて下さい。

参考URL

備考

科目名： 日本国憲法と立憲主義／公法概論A**担当教員： 徳永 貴志**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 月5

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-PU1-T101

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:2

更新者：AC7751

更新日時：2026-01-02 13:41:5

授業形式

すべての授業回について対面で授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本国憲法の諸原理について、必要に応じて裁判例も参照しながら条文に即して詳しく解説する。国会が制定する法律や行政府による命令は憲法に違反してはならないとされているが、それはなぜか。また、日本国憲法は制定以来一度も改正されていないが、その事実はどのように評価すればよいか。民主政国家の日本において、現在の国民によって民主的に組織される国会や内閣による政治決定よりも、80年近く前に制定された憲法の方が優位するのはなぜか。この講義では、我々を取り巻く具体的な政治問題も取り上げながら、これらの疑問について考える。

前期の「日本国憲法と立憲主義」/「公法概論A」では、憲法総論および統治機構について学ぶ。

科目目的

日本国憲法に規定される個別の条項だけではなく、それらの背景にある思想・原理などの学習を通して、「立憲主義」の考え方を身につけることをねらいとする。また、他国の憲法との比較も行うことによって、普遍的な視点で憲法について考える姿勢の習得を目指す。

到達目標

履修者は、今日我々が直面している重要な憲法問題の所在を知り、広い視野と柔軟な思考によって、それらの問題を論理的に整理し、自らの価値判断に従って理に適った議論を組み立てることができるようになる。憲法の意味について考える出発点として、統治機構(国会・内閣・裁判所)や学説による憲法解釈の内容を正しく理解する必要があるが、それらの憲法解釈を踏まえたうえで、さらに自らの熟慮を通じて導き出した結論を立場の異なる相手にも説得的に説明できるようになることを目指す。

授業計画と内容

- 1 憲法と国家
- 2 大日本帝国憲法の制定と特質
- 3 日本国憲法の制定と基本原理
- 4 平和主義
- 5 立憲主義と平和主義
- 6 内閣(1) 政府・議会関係
- 7 内閣(2) 内閣の権限と責任
- 8 国会(1) 仕組と権能
- 9 国会(2) 議院と議員
- 10 司法権と裁判(1) 法律上の争訟と司法権の限界
- 11 司法権と裁判(2) 裁判所の仕組と違憲審査制
- 12 地方自治
- 13 国民代表制
- 14 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

事前に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで用語や概念についてのイメージを掴んでおくこと。授業後には、判例集も参照しながらレジュメや教科書を読み返すこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	統治機構の仕組みや、それらに関する判例・学説による憲法解釈の内容を正しく理解しているか、またそれらを踏まえた立論ができるかを確認するため、選択式および記述式の試験を実施し、合計点で評価する。
レポート	0%	
平常点	40%	授業で扱った内容を正確に理解しているか否かを確認するための小テストを毎週実施する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

斎藤一久・堀口悟郎編著『図録 日本国憲法〔第3版〕』(弘文堂、2026年)
只野雅人・松田浩編著『現代憲法入門〔第2版〕』(法律文化社、2025年)

【参考文献】

判例集:『憲法判例百選Ⅰ〔第8版〕』および『憲法判例百選Ⅱ〔第8版〕』(有斐閣、2025年)
法令集:『ポケット六法』(有斐閣)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名： 日本国憲法と立憲主義／公法概論A**担当教員： 徳永 貴志**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：月6

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-PU1-T101

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:2

更新者：AC7751

更新日時：2026-01-02 13:42:3

授業形式

すべての授業回について対面で授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本国憲法の諸原理について、必要に応じて裁判例も参照しながら条文に即して詳しく解説する。国会が制定する法律や行政府による命令は憲法に違反してはならないとされているが、それはなぜか。また、日本国憲法は制定以来一度も改正されていないが、その事実はどのように評価すればよいか。民主政国家の日本において、現在の国民によって民主的に組織される国会や内閣による政治決定よりも、80年近く前に制定された憲法の方が優位するのはなぜか。この講義では、我々を取り巻く具体的な政治問題も取り上げながら、これらの疑問について考える。

前期の「日本国憲法と立憲主義」／「公法概論A」では、憲法総論および統治機構について学ぶ。

科目目的

日本国憲法に規定される個別の条項だけではなく、それらの背景にある思想・原理などの学習を通して、「立憲主義」の考え方を身につけることをねらいとする。また、他国の憲法との比較も行うことによって、普遍的な視点で憲法について考える姿勢の習得を目指す。

到達目標

履修者は、今日我々が直面している重要な憲法問題の所在を知り、広い視野と柔軟な思考によって、それらの問題を論理的に整理し、自らの価値判断に従って理に適った議論を組み立てることができるようになる。憲法の意味について考える出発点として、統治機構(国会・内閣・裁判所)や学説による憲法解釈の内容を正しく理解する必要があるが、それらの憲法解釈を踏まえたうえで、さらに自らの熟慮を通じて導き出した結論を立場の異なる相手にも説得的に説明できるようになることを目指す。

授業計画と内容

- 1 憲法と国家
- 2 大日本帝国憲法の制定と特質
- 3 日本国憲法の制定と基本原理
- 4 平和主義
- 5 立憲主義と平和主義
- 6 内閣(1) 政府・議会関係
- 7 内閣(2) 内閣の権限と責任
- 8 国会(1) 仕組と権能
- 9 国会(2) 議院と議員
- 10 司法権と裁判(1) 法律上の争訟と司法権の限界
- 11 司法権と裁判(2) 裁判所の仕組と違憲審査制
- 12 地方自治
- 13 国民代表制
- 14 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

事前に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで用語や概念についてのイメージを掴んでおくとよい。授業後には、判例集も参照しながらレジュメや教科書を読み返すこと。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	統治機構の仕組みや、それらに関する判例・学説による憲法解釈の内容を正しく理解しているか、またそれらを踏まえた立論ができるかを確認するため、選択式および記述式の試験を実施し、合計点で評価する。
レポート	0%	
平常点	40%	授業で扱った内容を正確に理解しているか否かを確認するための小テストを毎週実施する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

斎藤一久・堀口悟郎編著『図録 日本国憲法〔第3版〕』(弘文堂、2026年)
只野雅人・松田浩編著『現代憲法入門〔第2版〕』(法律文化社、2025年)

【参考文献】

判例集:『憲法判例百選Ⅰ〔第8版〕』および『憲法判例百選Ⅱ〔第8版〕』(有斐閣、2025年)
法令集:『ポケット六法』(有斐閣)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名： 日本国憲法と人権／公法概論B**担当教員： 徳永 貴志**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 月5

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-PU1-T102

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:2

更新者：AC7751

更新日時：2026-01-02 13:43:3

授業形式

すべての授業回について対面で授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本国憲法の諸原理について、必要に応じて裁判例も参照しながら条文に即して詳しく解説する。国会が制定する法律や行政府による命令は憲法に違反してはならないとされているが、それはなぜか。また、日本国憲法は制定以来一度も改正されていないが、その事実はどのように評価すればよいか。民主政国家の日本において、現在の国民によって民主的に組織される国会や内閣による政治決定よりも、80年近く前に制定された憲法の方が優位するのはなぜか。この講義では、我々を取り巻く具体的な政治問題も取り上げながら、これらの疑問について考える。

後期の「日本国憲法と人権／公法概論B」では、日本国憲法に掲げられた人権条項に関わる諸問題について、主に最高裁判所の裁判例を参照しながら学ぶ。

科目目的

日本国憲法に規定される個別の条項だけではなく、それらの背景にある思想・原理などの学習を通して、憲法による人権保障の考え方を身につけることをねらいとする。また、他国の憲法との比較も行うことによって、普遍的な視点で憲法について考える姿勢の習得を目指す。

到達目標

履修者は、今日我々が直面している重要な憲法問題の所在を知り、広い視野と柔軟な思考によって、それらの問題を論理的に整理し、自らの価値判断に従って理に適った議論を組み立てることができるようになる。憲法の意味について考える出発点として、裁判所の判例や研究者の学説による憲法解釈の内容を正しく理解する必要があるが、それらの憲法解釈を踏まえたうえで、さらに自らの熟慮を通じて導き出した結論を立場の異なる相手にも説得的に説明できるようになることを目指す。

授業計画と内容

- 1 憲法によって保障される権利の特徴
- 2 表現の自由(1)保障内容
- 3 表現の自由(2)規制の態様
- 4 表現の自由(3)報道の自由・集会の自由
- 5 信教の自由(1)保障内容
- 6 信教の自由(2)政教分離原則
- 7 法の下での平等(1)保障内容
- 8 法の下での平等(2)判例の展開
- 9 経済的自由(1)職業選択の自由
- 10 経済的自由(2)規制立法の合憲性審査
- 11 思想・良心の自由
- 12 財産権
- 13 社会権
- 14 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

事前に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで用語や概念についてのイメージを掴んでおくこと。授業後には、判例集も参照しながらレジュメや教科書を読み返すこと。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	憲法の人権規定に関する判例や学説による解釈の内容を正しく理解しているか、またそれらを踏まえた立論ができるかを確認するため、選択式および記述式の試験を実施し、合計点で評価する。
レポート	0%	
平常点	40%	授業で扱った内容を正確に理解しているか否かを確認するための小テストを毎週実施する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

斎藤一久・堀口悟郎編著『図録 日本国憲法〔第3版〕』(弘文堂、2026年)
只野雅人・松田浩編著『現代憲法入門〔第2版〕』(法律文化社、2025年)

【参考文献】

判例集:『憲法判例百選Ⅰ〔第8版〕』および『憲法判例百選Ⅱ〔第8版〕』(有斐閣、2025年)
法令集:『ポケット六法』(有斐閣)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名： 日本国憲法と人権／公法概論B**担当教員： 徳永 貴志**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 月6

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-PU1-T102

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:2

更新者：AC7751

更新日時：2026-01-02 13:43:4

授業形式

すべての授業回について対面で授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

日本国憲法の諸原理について、必要に応じて裁判例も参照しながら条文に即して詳しく解説する。国会が制定する法律や行政府による命令は憲法に違反してはならないとされているが、それはなぜか。また、日本国憲法は制定以来一度も改正されていないが、その事実はどのように評価すればよいか。民主政国家の日本において、現在の国民によって民主的に組織される国会や内閣による政治決定よりも、80年近く前に制定された憲法の方が優位するのはなぜか。この講義では、我々を取り巻く具体的な政治問題も取り上げながら、これらの疑問について考える。

後期の「日本国憲法と人権／公法概論B」では、日本国憲法に掲げられた人権条項に関わる諸問題について、主に最高裁判所の裁判例を参照しながら学ぶ。

科目目的

日本国憲法に規定される個別の条項だけではなく、それらの背景にある思想・原理などの学習を通して、憲法による人権保障の考え方を身につけることをねらいとする。また、他国の憲法との比較も行うことによって、普遍的な視点で憲法について考える姿勢の習得を目指す。

到達目標

履修者は、今日我々が直面している重要な憲法問題の所在を知り、広い視野と柔軟な思考によって、それらの問題を論理的に整理し、自らの価値判断に従って理に適った議論を組み立てることができるようになる。憲法の意味について考える出発点として、裁判所の判例や研究者の学説による憲法解釈の内容を正しく理解する必要があるが、それらの憲法解釈を踏まえたうえで、さらに自らの熟慮を通じて導き出した結論を立場の異なる相手にも説得的に説明できるようになることを目指す。

授業計画と内容

- 1 憲法によって保障される権利の特徴
- 2 表現の自由(1)保障内容
- 3 表現の自由(2)規制の態様
- 4 表現の自由(3)報道の自由・集会の自由
- 5 信教の自由(1)保障内容
- 6 信教の自由(2)政教分離原則
- 7 法の下での平等(1)保障内容
- 8 法の下での平等(2)判例の展開
- 9 経済的自由(1)職業選択の自由
- 10 経済的自由(2)規制立法の合憲性審査
- 11 思想・良心の自由
- 12 財産権
- 13 社会権
- 14 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

事前に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで用語や概念についてのイメージを掴んでおくとよい。授業後には、判例集も参照しながらレジュメや教科書を読み返すこと。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	憲法の人権規定に関する判例や学説による解釈の内容を正しく理解しているか、またそれらを踏まえた立論ができるかを確認するため、選択式および記述式の試験を実施し、合計点で評価する。
レポート	0%	
平常点	40%	授業で扱った内容を正確に理解しているか否かを確認するための小テストを毎週実施する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

斎藤一久・堀口悟郎編著『図録 日本国憲法〔第3版〕』(弘文堂、2026年)
只野雅人・松田浩編著『現代憲法入門〔第2版〕』(法律文化社、2025年)

【参考文献】

判例集:『憲法判例百選Ⅰ〔第8版〕』および『憲法判例百選Ⅱ〔第8版〕』(有斐閣、2025年)
法令集:『ポケット六法』(有斐閣)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名： 私法概論／私法概論A**担当教員： 李 憲**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：金3

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-LA1-T103

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:2

更新者：AD2244

更新日時：2025-11-20 18:29:0

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

科学技術の進歩による大量生産・大量消費、効率至上主義は、私たちの生活に大きな利便性をもたらしましたが、しかし同時に、様々な危険性や問題点も影の側面として浮かび上がってきており、思いがけず被害者または加害者になってしまう可能性が高まりつつあります。それらの危険性や問題点に対応するために、法整備も各分野において急ピッチで進められています。現代社会に潜む危険性や紛争リスクを理解し、その予防・解決方法を習得することは、現代人にとっての基礎的素養になりつつあるといえます。本講義では、我々の日常生活と私法との関わり方について、「大学生生活と法」、「消費生活と法」、「家庭生活と法」、「職場生活と法」、「裁判と法」の五つの視点から解説します。

科目目的

本講義は、私たちが大学生、消費者、家庭構成員、労働者として日常生活を送る中で遭遇する様々な紛争を理解し、法的な問題解決力と法的思考力を身につけることを目的とします。

到達目標

- この科目では、以下を到達目標とします。
- ・現代社会を支える私法の基本的な仕組みと役割を理解し、説明することができる。
- ・日常生活に潜む様々な紛争リスクを理解し、予防ないし解決の方法を習得し、説明することができる。
- ・社会人として必要な法的思考力(リーガルマインド)を身につける。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス、現代社会における私法の役割
- 第2回 大学生生活と法(1)成人することの法的意味
- 第3回 大学生生活と法(2)SNS上の名誉棄損、デートDVなど
- 第4回 消費生活と法(1)契約とは
- 第5回 消費生活と法(2)消費者契約と消費者保護
- 第6回 家庭生活と法(1)結婚することの法的意味
- 第7回 家庭生活と法(2)離婚をめぐる紛争
- 第8回 家庭生活と法(3)親子になることの法的意味
- 第9回 家庭生活と法(4)法定相続人と法定相続分、遺産分割
- 第10回 家庭生活と法(5)遺言と遺留分
- 第11回 職場生活と法(1)労働に関する基本ルール
- 第12回 職場生活と法(2)職場におけるハラスメント、労働災害など
- 第13回 裁判と法
- 第14回 まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	40%	最終回(第14回)の授業で示された課題についてレポートを作成し、指定する期日まで提出してもらいます。作成要領は、授業中に説明します。40点満点。
平常点	60%	毎回授業後(初回と最終回を除く。)に理解度確認テストを行います。60点(5点×12回)満点。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

期末レポート40%、理解度確認テスト60%により、総合的に評価します。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

内容が多岐にわたる科目であるため、教科書は指定せず、教員の作成・配布したレジュメ・資料に沿って授業を行います。参考書・参考資料は授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 主権国家の国際法／国際法A**担当教員： 中坂 恵美子**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：水4

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-IL1-T105

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:2

更新者：AA1731

更新日時：2026-01-12 23:02:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

前期の授業である主権国家と国際法／国際法Aでは、国家の主権が強く作用する分野である、武力の行使、安全保障、主権と自決権などの問題、国家そのものやその管轄権の問題、領域など、国際法の基本的な問題を学びます。

科目目的

国際法は原則国家間の法ですが、わたしたち個人の生活に大きな影響を与えているものです。主権国家の国際法／国際法Aはグローバル社会と国際法／国際法Bとともに、各分野の具体的な事例を含めた法制度、さらに総論的に国際法の法としての特徴なども学び、皆さんが国内及び国際社会について考えるときに必要となる知識を増やすことを目的としています。

到達目標

武力行使や安全保障、自決権といった国際法の基本概念がわかるようになること。管轄権や領域に関するルールを知識として身につけること。

授業計画と内容

1. ガイダンス、国際法の基礎(テキスト 第1章)
2. 武力行使禁止と自衛権(第2章)
3. 集団安全保障(第3章)
4. 主権と自決権(第4章)
5. 国家・政府の誕生と内戦(第5章)
6. 国家管轄権(第6章)
7. 振り返りと小括
8. 管轄権の制限(第7章)
9. 国家領域(第8章)
10. 領域使用(第9章)
11. 海洋法の構造(第10章)
12. 海洋開発(第11章) <ゲスト講師>
13. 振り返りと小括
14. 総括・まとめ:主権国家と国際法

※ 振り返りと小括の回は、受講生からの質問に対する回答、受講生同士の討論や発表などを取り入れます。

※ ゲスト講師の回は予定であり、変更の可能性があります。また、順番も変更する可能性があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業では教科書のすべてを扱えないので、授業で扱わなかった部分は自分で学習してほしい。自習で理解できない部分があったら、積極的に質問してほしい。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	64% 今学期に学んだ範囲の国際法の問題について、教科書と授業で学んだことを正確に理解していること。
レポート	0%
平常点	36% 授業を理解し、自分なりに考えることができること。 ただし無断欠席が5回を超える者は成績評価の対象とならない。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

特に小括の回に、受講生からの質問への応答、討論を実施する予定である。

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業中にresponで回答してもらうことがある。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト 山形英郎編『国際法入門 逆から学ぶ』第3版、法律文化社、2022年
この授業は毎回上記のテキストに基づいて行います。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・前期授業「主権国家の国際法／国際法A」と後期授業「グローバル社会と国際法／国際法B」で国際法の主要分野をひと通り学習します。テキストも共通ですので、後期授業の継続を勧めます。
- ・上記の授業計画と内容に記載した実施回がずれることがあります。
- ・課題の回答やその他いただいた質問は、匿名で授業中に紹介することがあります。

参考URL

科目名: グローバル社会と国際法／国際法B

担当教員: 中坂 恵美子

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 水4

配当年次: 1～4年次配当

科目ナンバー: LE-IL1-T106

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:57:2

更新者: AA1731

更新日時: 2026-01-12 23:03:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

後期の授業であるグローバル社会と国際法／国際法Bでは、外国人法、国際人権法、国際人道法、国際刑事法、国際経済法、国際環境法、国際連合法という個別分野の法に加え、国際法の主体、条約、紛争解決といった総論的な問題を考えていきます。グローバル化により、変化する国際法を学んでください。

科目目的

国際法は原則国家間の法ですが、わたしたち個人の生活に大きな影響を与えているものです。グローバル社会と国際法／国際法Bは主権国家の国際法／国際法Aとともに、各分野の具体的な事例を含めた法制度、さらに総論的に国際法の法としての特徴なども学び、皆さんが国内及び国際社会について考えるときに必要となる知識を増やすことを目的としています。

到達目標

今期の授業であつかう国際法の各分野の概要について、理解し、説明することができるようになること。

授業計画と内容

1. ガイダンス
2. 外国人法(テキスト第14章)
3. 国際人権法(第15章)
4. 国際人道法(第16章)
5. 国際刑事法(第17章)
6. 国際経済法(第18章)
7. 振り返りと小括
8. 国際環境法(第19章)
9. 国際連合法(第20章)
10. 条約の締結と効力(第22章)、条約の無効と終了(第23章)
11. 紛争解決(第27章)
12. ゲスト講師によるレクチャー
13. 振り返りと小括
14. 総括: グローバル社会と国際法

- ※ 振り返りと小括の回は、受講生からの質問に対する回答、受講生同士の討論などを取り入れます。
- ※ ゲスト講師の回は予定であり、変更の可能性があります。また、順番も変更する可能性があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業では教科書のすべてを扱えないので、授業で扱わなかった部分は自分で学習してほしい。自習で理解できない部分があったら、積極的に質問してほしい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	64% 今学期に学んだ範囲の国際法の問題について、教科書と授業で学んだことを正確に理解していること。
レポート	0%
平常点	36% 授業の内容を理解し、自分で考えることができること。 ただし無断欠席が5回を超える者は成績評価の対象とならない。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

特に小括の回に、受講生からの質問への応答や討論を実施する予定である。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業中にresponで回答をしてもらうことがある。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

山形英郎編『国際法入門 逆から学ぶ』第3版、法律文化社、2022年
この授業は毎回上記テキストに基づいて行います。テキスト必携。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・前期授業「主権国家の国際法／国際法A」と後期授業「グローバル社会と国際法／国際法B」で国際法の主要分野をひと通り学習します。テキストも共通ですので、前期授業からの継続をお勧めします。
- ・上記の授業計画と内容に記載した実施回がずれることがあります。
- ・課題の回答やその他いただいた質問は、匿名で授業中に紹介することがあります。

参考URL

備考

科目名： 経済学**担当教員： 鬼丸 朋子**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 火2

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-EO1-T107

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:2

更新者：AA1408

更新日時：2026-01-05 15:01:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この科目は教職(社会、公民)の必修科目です。そこで、教職課程で社会、公民を選択している学生が、公民や社会の教科書に記載されている内容についての知見を深める一助となるような内容を中心に扱っていきます。

科目目的

この授業では、経済学の基本的な考え方(の一部)を理解できることを目標とします。

到達目標

この授業は、経済学の基本的な考え方を示し、様々な経済問題を分析する視点や知識が習得できるよう進めていきます。こうした知識をもとに、日本経済や日本社会が直面している諸問題を分析する能力を養うことが到達目標です。

授業計画と内容

- 第1回 インTRODクシヨン(注意事項、講義の狙い、授業の進め方、成績評価の説明等)
- 第2回 「経済」とは
- 第3回 経済学の歩み
- 第4回 需要と供給
- 第5回 GDPとは
- 第6回 戦後の日本経済の歴史
- 第7回 市場経済とは
- 第8回 「政府」の役割—財政の役割と仕組み
- 第9回 「金融」とは
- 第10回 日本銀行の役割
- 第11回 「会社」とは
- 第12回 「日本的雇用慣行」が抱える課題
- 第13回 「社会保障」とは
- 第14回 全体のまとめ

※授業の進度によって、講義計画を変更・調整する可能性があります。その際は、授業中に適宜アナウンスいたします。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 45% 授業期間中に複数回・不定期の小テストを事前予告なしで実施します。複数回の小テストを合計すると、45点満点になります。

期末試験	55%	期末に筆記試験を実施します(記述問題)。期末試験は55点満点です。詳細については授業内で説明します。
レポート	0%	
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業に関する質問について、manaba上で受け付け、講義やmanabaで回答します。

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業時の質問の受付、課題やレポートの提出等で適宜manabaを使用します。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- テキスト
- ・テキスト:八田幸二・佐藤拓也・武田勝『攻略!!日本経済-改訂2版』学文社、2019年
- ・その他:授業中に、必要に応じて資料を配布することがあります。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・1回目の授業で、授業の進め方や小テストの実施方法、単位取得に関する説明等を行います。履修の意思がある者は必ず1回目の授業を受講してください。
- ・担当教員のメールアドレス tonimaru001z@g.chuo-u.ac.jp

参考URL

備考

この科目は教職(社会、公民)の必修科目です。

科目名： 経済学**担当教員： 鬼丸 朋子**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 火3

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-EO1-T107

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:2

更新者：AA1408

更新日時：2026-01-05 15:02:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この科目は教職(社会、公民)の必修科目です。そこで、教職課程で社会、公民を選択している学生が、公民や社会の教科書に記載されている内容についての知見を深める一助となるような内容を中心に扱っていきます。

科目目的

この授業では、経済学の基本的な考え方(の一部)を理解できることを目標とします。

到達目標

この授業は、経済学の基本的な考え方を示し、様々な経済問題を分析する視点や知識が習得できるよう進めていきます。こうした知識をもとに、日本経済や日本社会が直面している諸問題を分析する能力を養うことが到達目標です。

授業計画と内容

- 第1回 インTRODクシヨン(注意事項、講義の狙い、授業の進め方、成績評価の説明等)
- 第2回 「経済」とは
- 第3回 経済学の歩み
- 第4回 需要と供給
- 第5回 GDPとは
- 第6回 戦後の日本経済の歴史
- 第7回 市場経済とは
- 第8回 「政府」の役割—財政の役割と仕組み
- 第9回 「金融」とは
- 第10回 日本銀行の役割
- 第11回 「会社」とは
- 第12回 「日本的雇用慣行」が抱える課題
- 第13回 「社会保障」とは
- 第14回 全体のまとめ

※授業の進度によって、講義計画を変更・調整する可能性があります。その際は、授業中に適宜アナウンスいたします。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

中間試験 45% 授業期間中に複数回・不定期の小テストを事前予告なしで実施します。複数回の小テストを合計すると、45点満点になります。詳細については授業内で説明します。

期末試験	55%	期末に筆記試験を実施します(記述問題)。期末試験は55点満点です。詳細については授業内で説明します。
レポート	0%	
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業に関する質問について、manaba上で受け付け、講義中に回答していきます。

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業に関する質問について、manaba上で受け付け、講義やmanabaで回答します。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- テキスト
- ・テキスト:八田幸二・佐藤拓也・武田勝『攻略!!日本経済-改訂2版』学文社、2019年
- ・その他:授業中に、必要に応じて資料を配布することがあります。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・1回目の授業で、授業の進め方や小テストの実施方法、単位取得に関する説明等を行います。履修の意思がある者は必ず1回目の授業を受講してください。
- ・担当教員のメールアドレス tonimaru001z@g.chuo-u.ac.jp

参考URL

備考

この科目は教職(社会、公民)の必修科目です。

科目名： 国際経済学／国際経済学A

担当教員： 陳 建安

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 木4

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-NE1-T108

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:57:2

更新者： AA1941

更新日時： 2026-01-04 15:30:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

国際貿易の基礎理論を紹介し、国際貿易政策の基本的なツールとその効果を解説します。国際化とグローバル化の視点から、GATT/WTOの仕組みや課題及び地域的経済統合の現状、効果とその問題点を分析します。また、国際直接投資の基礎理論を講義し、国際直接投資の世界経済と受入国経済発展へのインパクトを考察します。そして、国際金融の基礎理論や国際通貨制度を紹介し、国際金融政策と国内経済政策との関連性などを解明します。

科目目的

本講義は、国際経済学の基本的な知識を習い、国際貿易、国際直接投資と国際金融の動きをある程度理解させることを目的とします。

到達目標

本講義は、学生が習得した知識をもって国際貿易、国際直接投資と国際金融の動向を簡単に分析できるようになることを目標とします。

授業計画と内容

講義を主としますが、場合にはディスカッションも行います。

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: 国際貿易理論1: 自由貿易主義の理論
- 第3回: 国際貿易理論2: 保護貿易主義の理論
- 第4回: 国際貿易政策1: 関税政策
- 第5回: 国際貿易政策2: 非関税政策
- 第6回: 世界貿易体制: GATT/WTO
- 第7回: 地域経済統合
- 第8回: 国際直接投資の理論
- 第9回: 国際直接投資の実践
- 第10回: 国際収支とその調整
- 第11回: 為替レート決定の理論
- 第12回: 為替市場介入と国際マクロ経済政策
- 第13回: 国際通貨制度
- 第14回: 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回講義の前に、指定した参考書やmanabaに配布した資料を必ず読み、授業のポイントについて理解した上で出席すること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	70%	質問への回答の正確性で評価
レポート	0%	
平常点	30%	出席状況や質疑応答など
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

出席状況、質疑応答、期末試験の得点などによって総合的に評価します。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

Webex, manaba, etc.

実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

浦田 秀次郎, 小川 英治 他著、『はじめて学ぶ 国際経済』(新版)、有斐閣アルマ、2022年8月。

オフィスアワー

その他特記事項

特にありません。

参考URL

備考

科目名： 政治学**担当教員： 荒井 紀一郎**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 他

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-PS1-T109

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:2

更新者：AA0945

更新日時：2026-01-09 14:45:1

授業形式

全回オンデマンド配信型講義を実施する。期末試験は試験期間中に対面で実施する予定である。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

議会における与野党の攻防や選挙における政権交代、政策決定過程における利益団体と政治家、官僚との間で行われる駆け引き、さらには国家間における戦争や紛争といった政治現象は、政治家、官僚、利益団体、そして有権者などの政治過程に関わる様々なアクターと、政治経済制度との相互作用によって起きている。本講義では、そうした政治現象を科学的に理解するための「理論」と「モデル」の基礎について解説していく。まず、学期前半には各政治アクターの行動を説明するための理論とモデルについて解説する。次いで、学期後半ではアクター同士、あるいはアクターと制度との相互作用を理解するためのモデルを紹介する。

科目目的

政治学における理論、モデル、そして方法の基礎について解説する。

到達目標

到達目標は以下3点

- 1.政治現象を説明するための基礎的な理論とモデルについて理解する
- 2.政治にかかわる様々なアクターの行動メカニズムについて理解する
- 3.政治現象の分析手法の基礎を身につける

授業計画と内容

パートI:政治アクターの行動メカニズム

第01講 政治アクターの行動メカニズム1:社会学モデルと心理学モデル

第02講 政治アクターの行動メカニズム2:経済学モデル

第03講 有権者:政治的価値観、政治的洗練性、党派性

第04講 議員:議員の行動インセンティブ、デュベルジェの法則

第05講 政党:連合形成、政党の機能

第06講 官僚:本人-代理人関係、政党優位論、官僚優位論

パートII:規範理論と〇〇ism

第07講 イデオロギー、規範理論

第08講 政治と政治学

パートIII:アクターと制度との相互作用

第09講 有権者 vs. 議員1:政治参加

第10講 有権者 vs. 議員2:投票行動

第11講 メディア vs. 有権者 vs. 政府:アジェンダセッティング、フレーミング、プライミング

第12講 利益団体 vs. 官僚 vs. 政治家:族議員と議員連盟、少数者の支配、鉄の三角同盟

第13講 国家 vs. 国家:紛争の発生メカニズム、悪魔の弁護人

第14講 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	70%	・政治学の理論と方法の基礎について理解できているか ・社会科学における規範理論と実証理論との関係について理解できているか ・試験は、試験試験期間中に対面(教室)にて実施する
レポート	0%	
平常点	30%	学期中に6回テストを実施する。テストの難易度は期末試験同等レベルとする。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書は特に指定しない。講義資料は、すべてmanabaにアップロードされているので、各自ダウンロード、プリントアウトして持参すること。授業時の配布は行わない。以下、5冊を参考書として推奨する。

- 理論参考書
砂原庸介・稗田健志・多湖淳.2015.『政治学の第一歩』有斐閣ストゥディア.
飯田健・松林哲也・大村華子.2015.『政治行動論』有斐閣ストゥディア.

- 方法論参考書
久米郁男.2013.『原因を推論する』有斐閣

- 政治制度や政党名などの基礎的な事項について確認しておきたい人のための入門書
福井英次郎(編).2019.『基礎ゼミ 政治学』世界思想社
西山 隆行(編)・向井 洋子(編).2023.『図録 政治学』弘文堂

オフィスアワー

その他特記事項

- 障害者差別解消法に基づく合理的配慮を希望する場合には、履修登録期間中に本学が定める正式な手続きによって申請すること。学期後半での申請、あるいは担当教員や他の受講生にとって過大な負担となるような申請には応じない。
- 大学設置基準では授業への出席を単位認定の前提している。したがって、いかなる理由、事情においても授業の欠席に対しては一切の配慮を行わない。
- 本科目の履修者は、このシラバスを熟読し、理解した上で履修登録を行っているものとみなす。

参考URL

担当教員ウェブサイト
<https://www.arai.fps-chuo-univ.jp/>

備考

この科目はオンライン形式です。この科目は教職(社会、公民)の必修科目です。

科目名： 政治学**担当教員： 荒井 紀一郎**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 他

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-PS1-T109

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:2

更新者：AA0945

更新日時：2026-01-09 14:45:2

授業形式

全回オンデマンド配信型講義を実施する。期末試験は試験期間中に対面で実施する予定である。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

議会における与野党の攻防や選挙における政権交代、政策決定過程における利益団体と政治家、官僚との間で行われる駆け引き、さらには国家間における戦争や紛争といった政治現象は、政治家、官僚、利益団体、そして有権者などの政治過程に関わる様々なアクターと、政治経済制度との相互作用によって起きている。本講義では、そうした政治現象を科学的に理解するための「理論」と「モデル」の基礎について解説していく。まず、学期前半には各政治アクターの行動を説明するための理論とモデルについて解説する。次いで、学期後半ではアクター同士、あるいはアクターと制度との相互作用を理解するためのモデルを紹介する。

科目目的

政治学における理論、モデル、そして方法の基礎について解説する。

到達目標

到達目標は以下3点

- 1.政治現象を説明するための基礎的な理論とモデルについて理解する
- 2.政治にかかわる様々なアクターの行動メカニズムについて理解する
- 3.政治現象の分析手法の基礎を身につける

授業計画と内容

パートI:政治アクターの行動メカニズム

第01講 政治アクターの行動メカニズム1:社会学モデルと心理学モデル

第02講 政治アクターの行動メカニズム2:経済学モデル

第03講 有権者:政治的価値観、政治的洗練性、党派性

第04講 議員:議員の行動インセンティブ、デュベルジェの法則

第05講 政党:連合形成、政党の機能

第06講 官僚:本人-代理人関係、政党優位論、官僚優位論

パートII:規範理論と〇〇ism

第07講 イデオロギー、規範理論

第08講 政治と政治学

パートIII:アクターと制度との相互作用

第09講 有権者 vs. 議員1:政治参加

第10講 有権者 vs. 議員2:投票行動

第11講 メディア vs. 有権者 vs. 政府:アジェンダセッティング、フレーミング、プライミング

第12講 利益団体 vs. 官僚 vs. 政治家:族議員と議員連盟、少数者の支配、鉄の三角同盟

第13講 国家 vs. 国家:紛争の発生メカニズム、悪魔の弁護人

第14講 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	70%	・政治学の理論と方法の基礎について理解できているか ・社会科学における規範理論と実証理論との関係について理解できているか ・試験は、試験試験期間中に対面(教室)にて実施する
レポート	0%	
平常点	30%	学期中に6回テストを実施する。テストの難易度は期末試験同等とする。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書は特に指定しない。講義資料は、すべてmanabaにアップロードされているので、各自ダウンロード、プリントアウトして持参すること。授業時の配布は行わない。以下、5冊を参考書として推奨する。

- 理論参考書
砂原庸介・樺田健志・多湖淳.2015.『政治学の第一歩』有斐閣ストゥディア.
飯田健・松林哲也・大村華子.2015.『政治行動論』有斐閣ストゥディア.

- 方法論参考書
久米郁男.2013.『原因を推論する』有斐閣

- 政治制度や政党名などの基礎的な事項について確認しておきたい人のための入門書
福井英次郎(編).2019.『基礎ゼミ 政治学』世界思想社
西山 隆行(編)・向井 洋子(編).2023.『図録 政治学』弘文堂

オフィスアワー

その他特記事項

- 障害者差別解消法に基づく合理的配慮を希望する場合には、履修登録期間中に本学が定める正式な手続きによって申請すること。学期後半での申請、あるいは担当教員や他の受講生にとって過大な負担となるような申請には応じない。
- 大学設置基準では授業への出席を単位認定の前提している。したがって、いかなる理由、事情においても授業の欠席に対しては一切の配慮を行わない。
- 本科目の履修者は、このシラバスを熟読し、理解した上で履修登録を行っているものとみなす。

参考URL

担当教員ウェブサイト
<https://www.arai.fps-chuo-univ.jp/>

備考

この科目はオンライン形式です。この科目は教職(社会、公民)の必修科目です。

科目名： 国際政治学／国際政治学A**担当教員： 今井 宏平**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 金2

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-IN1-T110

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:3

更新者：AC8466

更新日時：2026-01-10 22:09:5

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、幅広い視点から現代の国際政治について理解することを目的とする。そのために、国際関係論の基礎的な概念である主権国家、安全保障、移民・難民、ナショナリズム、平和構築、地域統合などについて検討する。また、現代の国際政治を理解するために必要な用語であるGゼロ、グローバル・サウス、文明内の衝突、権威主義、現状分析に必要な歴史的事実についても説明する。加えて、レポートの書き方やブレインストーミングの方法などにも可能な範囲で触れる。

科目目的

本講義の科目目的は、学生が学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に示されている「幅広い教養」と「複眼的思考」を修得することである。

到達目標

本講義の到達目標は、日々の国際政治に関して新聞や報道、SNSを鵜呑みにするのではなく、自らの視点で分析し、自分なりの意見を持つ土台を築くことである。そのために分析に関する方法論や基礎となる歴史についても講義で説明する。

授業計画と内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：主権国家
- 第3回：非国家主体
- 第4回：覇権国家
- 第5回：ナショナリズム
- 第6回：移民・難民
- 第7回：地域統合
- 第8回：戦争・内戦・人間の安全保障
- 第9回：平和構築
- 第10回：文明間の衝突と文明内の衝突
- 第11回：グローバル・サウス
- 第12回：民主主義国と権威主義国
- 第13回：経済安全保障
- 第14回：総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の授業について、テキスト、参考文献、配布資料を用いて予習・復習をする。普段から新聞、テレビ、SNSなど各種メディアで国際ニュースをチェックする。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	25%	授業の復習を兼ねた中間試験を第7回目もしくは8回目の授業で実施する。
期末試験	50%	期末試験の80点分は毎週の授業の復習、残り20点分は授業で扱った問題や概念を用いての記述問題とする。
レポート	0%	
平常点	25%	毎回の授業中に前の週の復習を兼ねた出席代わりの小テストを実施する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

毎授業の小テスト、中間試験、期末試験の合計の点数により判断する。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

テキストは指定しない。基本的にレジュメを配布して授業を進める。

【主な参考文献】

山田敦・和田洋典・倉科一希編『新版 国際関係学 一地球社会を理解するために』有信堂、2025年。
今井宏平『国際政治理論の射程と限界:分析ツールの理解に向けて』中央大学出版部、2017年。
エリカ・フランツ(上谷直克・今井宏平・中井遼訳)『権威主義:独裁政治の歴史と変貌』白水社、2021年。
ジェイムズ・カー＝リンゼイ / ミクラス・ファブリー(小林綾子)『分離独立と国家創設』白水社、2024年。

※その他の参考文献は授業中に提示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名： 映画史／映画論A

担当教員： 山口 雅敏

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 水5

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-AS1-T201

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:57:3

更新者： AB4683

更新日時： 2025-12-31 17:05:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

映画の黎明期から現在に至るまでの映画史的事実を参照しながら、映画の構成要素である「ショット」について考察していきます。適宜、いくつかの作品を取り上げ、ショットの分析を試みる予定です。また、レポートを書いてもらうための作品鑑賞も行います。

科目目的

映画史的な知識はもとより、映画の技法なども確認しながら、映画とはどのような表現形式なのかを考えることで、現在の映画に対する批評眼を養うことを目的とします。

到達目標

映画史と映画技法に関する知識に基づいて、映画を分析できるようになることを目標とします。

授業計画と内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 映画の「ショット」の基本技法
- 第3回 映画前史(映画の誕生までの歴史)
- 第4回 リュミエール兄弟による「シネマトグラフ」の発明とその「ショット」
- 第5回 メリエスのトリック映画と「ショット」
- 第6回 ドイツ表現主義の「ショット」
- 第7回 グリフィスとドライバーのクロースアップ 鑑賞1『ジャンヌダルク裁判』
- 第8回 デュープ・フォーカス ウェルズとワイラーの場合
- 第9回 ワンシーン・ワンショット(長回し) 鑑賞2『偉大なるアンバーソン家の人々』
- 第10回 主観ショットと客観ショット ヒッチコックを中心にして
- 第11回 移動撮影(カメラワーク)
- 第12回 シンメトリーの構図とフレーム内フレーム
- 第13回 小津のローアングルとジャームッシュの固定ショット
- 第14回 補遺 ミュージカル映画

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ・授業で指定した映画作品をできる限り視聴してもらいます。
- ・アマゾン・プライムなどを利用して、古今東西の映画をできるだけ多く観てほしいです。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%	
レポート	70%	レポートを2本提出してもらいます。第1回のレポートは、こちらの指定した映画作品を映画館に観に行ってもらいます。第2回のレポートは、アマゾンプライムなどで視聴可能な映画作品について書いてもらいます。
平常点	30%	適宜、授業で取り上げた映画作品についてのコメントなどを提出してもらいます。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 ディスカッション、ディベート
 グループワーク
 プレゼンテーション
 実習、フィールドワーク
 その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
 タブレット端末
 その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考文献
 運實重彦『映画論講義』東京大学出版

オフィスアワー

その他特記事項

- ・後期の授業と合わせて履修することが望ましいです。
- ・映画館に映画を必ず1度は観に行ってもらいます。
- ・YouTubeやAmazon Prime Videoなどが視聴可能であることを前提とします。

参考URL

この授業は、仏文学専攻・語文コース系の教員が担当しています。
 語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>
 語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名： 映画論・映画批評／映画論B

担当教員： 山口 雅敏

履修年度： 2026 学期： 後期

開講曜日時限： 水5

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-AS1-T202

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:57:3

更新者： AB4683

更新日時： 2025-12-31 17:04:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

映画の「モンタージュ」について考察します。映画作品がショットの繋ぎ合わせ(モンタージュ)によって成り立っていることを確認しながら、モンタージュの持つ意味を検討していきます。前期同様、適宜、いくつかの作品を取り上げて、分析を行う予定です。また、レポートを書いてもらうための作品鑑賞を行ってまいります。

科目目的

「モンタージュ」に関する映画史的な事柄を確認しながら、映画とはどのような表現形式なのかを考えることで、現在の映画に対する批評眼を養うことを目的とします。

到達目標

映画史的な知識や映画の技法に関する知識に基づて、映画作品を分析的に鑑賞することができるようになることを目標とします。

授業計画と内容

- 第1回 前期に学んだ基本事項の再確認。
- 第2回 デクパーージュとモンタージュ
- 第3回 メリエスのトリック映画とモンタージュ
- 第4回 グリフィスのモンタージュ(クロスカッテング)
- 第5回 フランス印象派の高速モンタージュ
- 第6回 ソビエトモンタージュ派1 クレシヨフの実験とモンタージュ
- 第7回 ソビエトモンタージュ派2 エイゼンシュタインのモンタージュ理論とその実践
鑑賞1『戦艦ポチョムキン』など。
- 第8回 ソビエトモンタージュ派3 ジガ・ヴェルトフのモンタージュ 鑑賞2『カメラを持った男』
- 第9回 アヴァンギャルドとシュールレアリスムのモンタージュ
- 第10回 ドイツ表現主義のモンタージュからヒッチコックへ(総合的モンタージュ)
- 第11回 ゴダールのジャンプカットなど。鑑賞3『勝手にしやがれ』
- 第12回 ウェルズとネオレアリズモの反モンタージュ(ロングテイク)
- 第13回 「禁じられたモンタージュ」(アンドレ・バザン)
- 第14回 補遺 スラップスティックコメディ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ・授業で取り扱う映画作品を、アマゾンプライムなどで、できる限り視聴してほしいです。
- ・レポートの課題以外にも、可能な限り映画館で映画を観てほしいです。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	70%	レポートを2本提出してもらいます。1本は、こちらの指定した映画作品を映画館で観て、書いてもらいます。もう1本は、アマゾンプライムなどで視聴できる映画作品について書いてもらいます。
平常点	30%	適宜、授業で取り上げた映画作品について、コメントなどを書いてもらうかもしれません。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考図書

蓮實重彦『映画論講義』東京大学出版

オフィスアワー

その他特記事項

- ・前期の授業と合わせて履修することが望ましいです。
- ・映画館に映画を必ず1回は観に行ってもらいます。
- ・YouTubeやAmazon Prime Videoなどが視聴できることを前提とします。

参考URL

この授業は、仏文学専攻・語文コース系の教員が担当しています。

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

科目名： 日本美術史(近世以前)／日本美術史A

担当教員： 近藤 暁子

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 火2

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-HR1-T204

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:57:3

更新者： AD0398

更新日時： 2026-01-12 15:53:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

古代から近世までの主要な美術作品について、画像を提示しながら作品の様式・作風といった時代の特徴や作品が生み出された社会背景について解説し、日本美術の流れを紹介します。

また、現存する美術作品は私たちが最も身近に接することのできる「歴史」そのものでもあります。芸術作品のもつ歴史資料としての側面についても触れ、その多様性についても感じていただきたいと思います。さらに実作品と接する機会となる展覧会などについてもタイムリーな情報を伝え、積極的にその機会を促します。

科目目的

古代から近世まで、日本美術史の基本的な流れを理解するとともに、美術作品を生み出した社会背景との関係性にも着目することを目的とします。

到達目標

講義で紹介される様々な作品を見ることにより作品鑑賞の視点を養い、自分で興味を持てる作品を見つけて日本美術に親しみを抱くとともに、講義終了後も将来的に日本美術・文化に興味関心を持てるようになることを目標とします。

授業計画と内容

- 第1回 インTRODクシヨン 美術史を学ぶということ
 - 第2回 飛鳥時代
 - 第3回 奈良時代
 - 第4回 平安時代1 密教の影響から和様化へ
 - 第5回 平安時代2 王朝の美術
 - 第6回 平安時代3 院政期の美術
 - 第7回 鎌倉・南北朝時代1 彫刻作品の展開
 - 第8回 鎌倉・南北朝時代2 絵画作品の展開
 - 第9回 室町時代
 - 第10回 桃山時代
 - 第11回 江戸時代1 絵画作品の展開1 江戸時代前半を中心に
 - 第12回 江戸時代2 絵画作品の展開2 江戸時代後半を中心に
 - 第13回 江戸時代3 彫刻作品と工芸品の展開
 - 第14回 まとめ
- ※なお、授業計画は、順序や内容が変更する可能性があります

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

必須ではありませんが、興味を持った参考文献について、授業に関する部分に事前に目を通しておくと、授業内容に対する理解をより深めることができると思います。また、授業後に参考文献を紐解くことも同様の効果が得られるので推奨します。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	100%
レポート	0%
平常点	0%
その他	0%

授業内容に関わるテーマについて、記述式の試験を行います。授業内容を理解し、自分なりの観点から記述できるかを評価します。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業内容に関する質問等については、manabaの掲示板等の機能により対応を考えています。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

博物館・美術館に勤務する実務経験なども踏まえて講義します。

実務経験に関連する授業内容

展覧会などを通じて、積極的に実作品に接する機会を設けていただくことを希望します。そのため、実作品と接する機会となる展覧会などについても特に講義に関連する情報を伝え、その機会を促すことを心がけていきます。

テキスト・参考文献等

- 【テキスト】
- 必要に応じて、授業時、もしくは事前にmanabaで配布します。
- 【参考文献】
- ・辻惟雄監修『カラー版 日本美術史』(増補新装版) 美術出版社 2003年
- ・辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版会 2005年
- ・『日本美術全集』全20巻 小学館 2012～2016年
- その他、必要に応じて授業中に紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名： 日本美術史(近現代)／日本美術史B

担当教員： 三上 美和

履修年度： 2026 学期： 後期

開講曜日時限： 木2

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-HR1-T205

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:57:3

更新者： AC5627

更新日時： 2026-01-09 18:40:0

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行う。講師による一方的な講義を基本とするが、講義中、理解度を図るため、受講生の発言を求める場合がある。
毎回、講義の最後に講義内容についての授業中レポートを課す。

履修条件・関連科目等

本講義は幕末以降の近代美術を扱うが、言うまでもなく、それらは前近代と密接につながっているため、受講生は前期の日本美術史Aの受講を履修条件とする。
また、初回ガイダンスでは講義概要、参考文献、レポート課題等、後期の講義全体に関わる重要な内容を伝えるため、本ガイダンス参加も履修条件とする。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本科目は総合基礎科目のひとつであり、受講生の教養として、日本近現代の美術史の基本的な流れとあわせ、毎回多数の美術、工芸作品を紹介する。それらはいずれも作られた時から今日まで大切に守り伝えられたものである。授業ではそのような観点から、作品が生み出された時代背景についても紹介する。受講生はそれぞれの関心に引き付け、楽しみながら、教養としての日本美術史と出会い、深めるきっかけとなってほしい。

高校で日本史を受講していない受講生は、受講前に高校生向けの日本史の教科書の該当箇所を読んでおくと、講義内容の理解がスムーズになる。受講後は配布資料を読み返してよく復習してほしい。

講義冒頭では、期末レポート課題の参考にもなるように、毎回授業に関わる展覧会を紹介する。受講生自身でも、講義に興味を持ったテーマや作家についての展覧会や作品をウェブで探すなどして、期末レポートに備えてほしい。

講義の最後の15分程度、授業についての感想を書く時間を設ける。レスポンスと講義中課題の提出で出席となる。
受講生の積極的な参加によって、お互い有意義な時間になることを期待している。

科目目的

本科目の目的は、教養としての日本近代美術史の基礎を広く学ぶことで、他国の文化を尊重する柔軟な姿勢を養うことである。

到達目標

授業で近現代の作品とそれらが作られた社会背景を知り、興味を持った作品やテーマについて調べ、まとめることにより、高校までの断片的な知識を整理し、日本美術史が受験勉強のための単なる知識ではなく、血の通った人間による文化的な営みであることを理解する。

授業計画と内容

授業計画(進捗状況により、若干変更する場合があります)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 美術とは？日本美術の始まり
- 第3回 明治の洋画
- 第4回 幕末から明治の日本画
- 第5回 岡倉天心、フェノロサと明治の日本画
- 第6回 明治以降の京都の日本画
- 第7回 明治以降の彫刻
- 第8回 芸術の支援者
- 第9回 大正から昭和の美術と工芸
- 第10回 大正から昭和の関西画壇

第11回 昭和戦前の洋画

第12回 戦後の美術(1) 日本画

第13回 戦後の美術(2) 洋画、彫刻、工芸

第14回 まとめと補足

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

前回の講義を配布資料を読み返す、参考文献を読むなどでよく復習すること、次回の配布資料を講義前によく読んで予習すること。また、さらに余裕があれば、授業に関連したテレビ番組の視聴、関連する展覧会見学、美術館のウェブサイト閲覧も授業時間外の学修とする。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	55% 1) 課題に適切に応えられているか。 2) 体裁が整えられているか。
平常点	45% 講義に積極的に参加しているかどうかを、平常点(下記の「備考」参照)で評価する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

- 「平常点」について
- 1) 講義の冒頭のレスポンス
 - 2) 授業中課題
 - 3) 講義中の講師からの質問対応

※1)のレスポンスで出席の登録のない受講生は授業中課題の提出を認めない。
※講義の三分之一(5回)以上欠席した場合、レポート提出は不可とする。

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 - ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
 - ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

responによる出席登録、講義中の質問に対するアンケート対応、講義中課題のレポート提出など。

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

- ・マナバのレスポンスを使った出欠確認。
- ・授業の感想のマナバのレポート提出(授業参加者の相互閲覧により、出席者同士のコミュニケーションを図る)。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

美術館学芸員の経験を踏まえて講義する。

実務経験に関連する授業内容

美術館で勤務している経験を活かし、現場の様子も適宜伝える。また講義の冒頭で美術館や博物館の展覧会などの最新情報を積極的に発信することで、受講生が展覧会などで作品に接し、日本美術を身近なものとしてとらえられるような授業を行う。

テキスト・参考文献等

辻惟雄監修『カラー版 日本美術史』(増補新装版)美術出版社、2002年、
林洋子編『芸術教養シリーズ8 アジア・アフリカと新しい潮流 近現代の芸術史 造形篇II』幻冬舎、2013年
その他、授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

講義の最後に授業内容の振り返りと質疑応答の時間を設ける。授業の理解度を図り、かつ積極的な参加をうながすため、受講生に意見を求める場合がある。

講義では美術作品とあわせて、「美術」の用語や概念が近代以降に登場しれたことなど、受講生にとって意外に思われる事実も取り上げる。レジュメや講義の動画を通じて、日本美術の面白さを少しでも伝えたい。受講生もこれからの人生の伴奏となるようなお気に入りの作品を見つけるつもりで、積極的に授業に参加してほしい。

質問や感想は、授業の最後の時間に直接質問する以外に、manabaの掲示板を通じて提出できる。受講生同士が互いの疑問や感想を共有することで、授業の理解が深まることを期待している。

参考URL

備考

科目名：音楽／音楽A**担当教員：渡辺 祐介**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：木2

配当年次：1～4年次担当

科目ナンバー：LE-AS1-T208

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:3

更新者：AD2029

更新日時：2026-01-21 12:35:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「音楽」が無条件・野放図に溢れている現代、普段私たちが耳にしている音楽のルーツを辿っていくことで、「いま」音楽に触れること・自ら音楽を発信していくことの根本的意義を考える。

科目目的

音楽・比較音楽の授業は、総合教育科目内の一般教養としての科目になります。西洋音楽そのものへの理解を深めることのみならず、その時代その時代の社会背景、音楽と社会システム、他の芸術との関わりを学ぶことで、音楽を中心としてより広い芸術分野への理解を深めることを目的とします。

到達目標

日常的に聴いている「音楽」(クラシック、ポピュラー音楽、民族音楽等)の共通の特徴は何か。それが様々な民族音楽とどう違うのか。その具体的な違いを耳でわかるようになること。また「楽音を使っているのか、ノイズが優勢か」「拍子感覚はどの程度あるのか」「ハーモニーの概念はあるのか」の三点について、分析的に考察できるようになること。また、歴史的に社会がどのようなタイプの音楽を求めようになっているのか、歴史的観点から論ずることができるようになること。

授業計画と内容

1. オリエンテーション - 西洋音楽の歴史を学ぶ意味
2. 古楽・クラシック・現代音楽 - 西洋音楽の三つのエポックについて
3. 多声音楽の始まり
4. 中世音楽の黄金時代と衰退
5. ルネサンス前期と無伴奏合唱
6. ルネサンス後期と劇化する音楽
7. バロック音楽と絶対王政
8. バッハ = 音楽の父という幻想
9. ウィーン古典派と近代市民音楽の勃興
10. ベートーヴェンの特異さと偉大さとは何か
11. ロマン派音楽の美学
12. ロマン派と芸術宗教
13. 前衛への越境と近現代音楽
14. まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

個人の趣味嗜好に関わらず、あらゆるジャンルの音楽を聴いてみる。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	100%	教室にて筆記形式で試験を行う。授業の内容を踏まえて、自らの考えをしっかりと文章で表現出来ているか。
レポート	0%	正当且つやむを得ない事情により期末試験が受けられなかった学生にのみ、レポート提出を課して試験に代える。
平常点	0%	授業の資料を読み込み、そこで取り上げられている音楽作品を聴いてみたか。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

声楽家(バス)、指揮者。主にバロック～古典派の声楽作品でソロ、アンサンブル歌手として活動。また、2018年より若いピリオド楽器(いわゆる古楽器)奏者が結集したオーケストラ「オルケストル・アヴェン＝ギャルド」の音楽監督として、特にベートーヴェンの作品を多数指揮・演奏している。

実務経験に関連する授業内容

クラシック音楽作品を紹介する際、演奏家目線での捉え方も盛り込んでいく。また、声楽家としての視点から音楽の持つ幅広い「歌謡性」にも触れていきたい。

テキスト・参考文献等

参考文献 ①著者 ②書名 ③出版社、出版年、出版地

岡田暁生「西洋音楽史」(中公新書)、中央公論新社、2005年、日本
 グラウト/パリスカ「新 西洋音楽史(上・中・下)」、音楽之友社、1998年、日本
 前川誠郎「西洋音楽史を聴く バロック・クラシック・ロマン派の本質」(講談社学術文庫)、講談社、2019年、日本
 久保田慶一「決定版 はじめての音楽史: 古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで」音楽之友社、2017年、日本

オフィスアワー

その他特記事項

西洋音楽史を14回の授業で俯瞰するのは非常に大変ですので、一回一回の授業を大切にしてください。
 授業内容での不明な点は授業中に質問して下さって結構ですし、授業後に教員に直接質問して下さっても構いません。また、manabaでの質問等も随時受け付けます。

参考URL

科目名： 社会言語学概論／社会言語学A**担当教員： 朝日 祥之**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 金2

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-LG1-T502

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:3

更新者：AD0151

更新日時：2026-01-14 15:00:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、私たちが日常生活で使う言葉に潜む規則性を明らかにする社会言語学を取り上げ、社会言語学の諸問題について理解を深めてもらうことを目的とする。社会言語学における諸分野における日本・欧米の研究動向を踏まえ、ことばが、話者の属性や場面、話し相手とどのようにかかわっているのかを考察する。授業で取り上げるテーマは、若者語、男女ことば、キャンパスことば、敬語、誘いの言葉遣いや依頼表現、ら抜き言葉、「かつこいい方言」と「かわいい方言」などである。

科目目的

本科目の目的
社会言語学の基礎的知識を見つけるとともに、関連テーマの研究動向、研究成果、私たちの使う言葉遣いに見られる様々な特徴を知ることができる。
到達目標
自分自身が使用する言語の特徴について内省できるようになる。ことばと社会との関係について考えを深めてもらうのと同時に自分自分で関連する現象を発見できるようになる。
意義
自分の言葉遣いに詳しくなること、日本語を始めとする様々な言語と社会との関係を知ることにより、これまで以上に良好な人間関係を構築・維持できるようになる。

到達目標

日常生活で自分が使っている言葉づかい、周りの人が使っている言葉づかいに対する関心を高めることができる。円滑なコミュニケーションを行うための知識を得ることができる。

授業計画と内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会言語学とは
- 第3回 ことばと年齢
- 第4回 ことばと階層
- 第5回 集団とことば
- 第6回 ことばと性・ジェンダー・セクシュアリティ
- 第7回 依頼・謝罪・勧誘・断りの言語行動
- 第8回 敬語・待遇表現・ポライトネス
- 第9回 言語接触：外来語
- 第10回 言語の誕生と死
- 第11回 ことばの評価
- 第12回 言語計画と国語施策・日本語施策
- 第13回 手話の社会言語学
- 第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	60% 本科目内容に関する総合的な理解を確認する。
レポート	0%
平常点	40% 授業内容に対する質問, 議論への参加など。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
 - ✓ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

講義ではレジュメを配布するため、テキストは使用しない。
参考文献としては
①真田信治・朝日祥之・簡月真・李舜炯(編)『新版社会言語学図集』ひつじ書房, 2021年, 東京

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：文化人類学／文化人類学A

担当教員：小田 昌教

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：水6

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-CA1-T605

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:3

更新者：AB5942

更新日時：2026-02-03 15:51:1

授業形式

全回リアルタイム授業

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業は、オンラインのリアルタイム授業です。毎回、授業ではリアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーの投稿先については、新学期がはじまってから、manaba でお知らせします。

参考として、昨年の授業概要動画を視聴してください。
<https://www.youtube.com/watch?v=2FUrRU05Mm8>

科目目的

日本のバンド、サザンオールスターズは、ヒット曲「ピースとハイライト」のなかで、こう歌っています。「教科書は、現代史をやる前に時間切れ。そこが一番知りたいのに、何でそうなっちゃうの？」(作詞：桑田佳祐)。何でそうになってしまうかはともかく、「現代史」は、みなさんたちが生まれ、そして現在進行形で、日々生きている時代の流れや世界の仕組みとダイレクトにつながる、本当なら一番知っておかなければならないはずのリアルな歴史です。そこでこの授業では、文化人類学の視点から、学校の教科書がやらない現代史をやります。この授業の目標は、日々、みなさんが目や耳にするニュースや言葉を、ただ聞き流すのではなく、その事件や出来事の背景と同時代史的な流れからニュースを読み解き、それについてより深くより広く考え、自分の意見を持つための知性と教養、そしてリテラシーを身につけることです。人間に関するあらゆる事象を「文化」という視点でとらえ、いまそこで生きている人たちについて考える、人間についての「雑学」である文化人類学は、その視点と方法論を提供してくれるでしょう。キーワードは、文化人類学、フィールドワーク、参与観察、グローバリゼーション、メタ認知、気候変動、ヒト新世、2025年問題、シンギュラリティ、就活地獄、大規模言語モデルAIです。

到達目標

この授業の到達目標は、次の5つです。

- ①オーセンティック・ラーニング
- ②クロスカリキュラム・ラーニング
- ③アンチバイアス・ラーニング
- ④プロアクティブ・ラーニング
- ⑤クリティカル・ラーニング

それぞれの意味については、授業のなかでお話しをすることとし、ここでは①についてだけ先にお話しします。

「オーセンティック・ラーニング」とは、過去の歴史や文化ではなく、自分たちがいま現在進行形で生きている現実社会で、いま、まさに起きている具体的な問題や事象をリアルタイムに学び、それに対する対応のしかたや解決策を考えてゆく学びのことです。

小説『精霊の守り人』の作者で、文化人類学である上橋菜穂子は「文化人類学とは何か」ということについて、こう述べています。

「文化人類学というのは、我が身で経験せよ、という学問なんです。本で読んで知識のみで構築していくのではなく、同時代の生きている人々の文化をいかに考え、いかに書くかということが大切になってくる。人類学者は、たったいま生きている人々のことを書く。」

授業計画と内容

各授業ごとのテーマは次のとおりですが、受講者の興味と関心、理解度にあわせて、授業のテーマは変更する場合があります。

- 01: ガイダンス https://youtu.be/AakBym_EA8s?si=Rk62z08xHyZCrCFB
- 02: 文化人類学タイトルリーディング <https://www.youtube.com/watch?v=vza-4awJzQo>
- 03: 文化人類学者たち
- 04: 文化人類学者になりそねた作家たち
- 05: 文化人類学者になりすました俳優たち
- 06: アクティヴィスト人類学者たち
- 07: 文化人類学の視点とスタンス
- 08: 満員電車の文化人類学 <https://youtu.be/QzohuhU34Ss?si=28SMUY5EtpZa4wmg>
- 09: 就活の文化人類学 https://youtu.be/xxu1SyllkIQ?si=DntrZ1D-y01Y_58Z
- 10: 企業文化の文化人類学

- 11: AIの文化人類学
 12: テクノロジーの文化人類学 https://youtu.be/jJsg_3uZUg?si=HP0r879c87qAubGP
 13: 文化人類学の人類学 <https://youtu.be/N9MwbxvVFQY?si=7SRtO2QERZB9hr8u>
 14: アクティヴ・ラーニング方式による期末テスト

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
 授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ・学習支援アプリ Padlet へのコメント投稿
- ・リアクションペーパーへのコメント投稿

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	なし
期末試験	90%	オンラインで提出する課題を評価対象とします。
レポート	0%	なし
平常点	0%	なし
その他	10%	リアクションペーパー

成績評価の方法・基準(備考)

クリティカルシンキング
 問題発見能力
 メディアリテラシー

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
 その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティヴ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 ディスカッション、ディベート
 グループワーク
 プレゼンテーション
 実習、フィールドワーク

- ✓ その他
 実施しない

アクティヴ・ラーニングの実施内容(その他)

- ・リアクションペーパーへのコメント投稿
- ・学習支援アプリ Padlet へのコメント投稿

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
 タブレット端末
 その他
 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
 いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

講義を担当する講師は、文化人類学を修めた後、現代美術家になり、現在はグラフィック・デザインや映像編集などの仕事をしながら、複数の大学で教育活動を行っています。この講義では、アートやデザインのスキルを活かし、講師が独自に編集した動画やグラフィック資料を

教材に使用して講義を行います。

実務経験に関連する授業内容

グラフィックデザイナーとしての実務経験を活かしたオンライン教材を使用します。

テキスト・参考文献等

教科書は使いません。授業ごとに必要な教材や資料(動画とPDF)を準備してmanaba で配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

大学で「教養」を身につけることの意義については、下記の文章を参考にしてください。

「ひとつの時代が終わったと言われて久しい。だが、その先にいかなる時代を展望するのか、私たちはその輪郭すら描きえていない。グローバル資本主義の浸透、憎悪の連鎖、暴力の応酬、世界は混沌として深い不安の只中にある。現代社会においては変化が常態となり、速さと新しさに絶対的な価値が与えられた。消費社会の深化と情報技術の革命は、種々の境界を無くし、人々の生活やコミュニケーションの様式を根底から変容させてきた。ライフスタイルは多様化し、一面では個人の生き方をそれぞれが選びとる時代が始まっている。同時に、新たな格差が生まれ、様々な次元での亀裂や分断が深まっている。社会や歴史に対する意識が揺らぎ、普遍的な理念に対する根本的な懐疑や、現実を変えることへの無力感がひそかに根を張りつつある。そして生きることに誰もが困難を感じる時代が到来している。しかし、日常生活のそれぞれの場で、自由と民主主義を獲得し実践することを通じて、私たち自身がそうした閉塞を乗り越え、希望の時代の幕開けを告げてゆくことは不可能ではあるまい。そのために、いま求められていること、それは、個と個の間で開かれた対話を積み重ねながら、人間らしく生きるための条件について一人ひとりが粘り強く思考することではないか。その営みの糧となるものが、教養に外ならないと私たちは考える。歴史とは何か、よく生きるとはいかなることか、世界そして人間はどこへ向かうべきなのか。こうした根源的な問いとの格闘が、文化と知の厚みを作り出し、個人と社会を支える基盤としての教養である」(岩波新書新赤版1000点に際して)(2006年)より抜粋

参考URL

<https://illcommonz.wordpress.com/>

備考

この科目はオンライン形式です。

科目名: ジェンダー論

担当教員: 黒岩 裕市

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 木5

配当年次: 1~4年次配当

科目ナンバー: LE-GN1-T701

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:57:3

更新者: AD0424

更新日時: 2026-01-10 11:48:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この講義のテーマである「ジェンダー」とは、社会的に構築される性差と説明されるものであるが、その性差(「男らしさ」や「女らしさ」、男性の役割や女性の役割とみなされるもの)は規範となり、私たちの身体や振る舞い、生き方や関係性を、「望ましい」「自然な」ものと、「奇妙な」「おかしい」ものに区分する機能をもつ。この講義ではジェンダーにまつわる諸問題を今日的な視点から問いなおすことを目的とするが、対象があまりにも広い(ジェンダー規範は「性」とは無関係に見える領域を含め、社会のすべてに浸透している)、授業の前半で「フェミニズムの歴史と現在」、後半で「クィア・スタディーズの取り組み」を大きなテーマとする(もちろんこの2つのテーマは密接に関連するものである)。それぞれ5回かけて、ジェンダー規範の問題性を検討したうえで、それに対する抵抗や交渉の軌跡をたどり、その可能性や限界について考察したい。また、ゲスト講師を招く回を前半に1回予定している。

授業の配布物、課題等はmanabaを通して配布する/提出してもらう(教室では紙でのやり取りは基本的には行なわない)。授業に関する連絡もmanabaの「コースニュース」で行なうため、学期中はmanabaを日常的にチェックすること。

科目目的

ジェンダーに関して「あたりまえ」や「普通」とみなされていることの前でいったん立ち止まり、再検討するようになること。

到達目標

他人事としてではなく、自分のこととして(自分自身と関連づけて)ジェンダーの諸問題を考えられるようになること。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 フェミニズムの歴史と現在①——第一波フェミニズム
- 第3回 フェミニズムの歴史と現在②——第二波フェミニズム
- 第4回 フェミニズムの歴史と現在③——「ポストフェミニズム」をめぐる議論を手がかりに
- 第5回 フェミニズムの歴史と現在④——性差の再強化? 「女子力」の語られ方
- 第6回 ゲスト講師による講義——性教育への「バックラッシュ」
- 第7回 フェミニズムの歴史と現在⑤——「バックラッシュ」への抵抗
- 第8回 第2回~第7回までのまとめ+「理解する」ということの問題性について
- 第9回 クィア・スタディーズの取り組み①——その始まりとエイズ・アクティヴィズム
- 第10回 クィア・スタディーズの取り組み②——境界を攪乱する?(1) ジュディス・バトラーの議論を手がかりに
- 第11回 クィア・スタディーズの取り組み③——境界を攪乱する?(2) イヴ・コフスキー・セジウィックの議論を手がかりに
- 第12回 クィア・スタディーズの取り組み④——「クィア」の主流化、「LGBT」の可視化(1) ポップカルチャーから考える
- 第13回 クィア・スタディーズの取り組み⑤——「クィア」の主流化、「LGBT」の可視化(2) 理論から考える、地方自治体の取り組みから考える
- 第14回 授業全体の総括と振り返り+「普通」なるもの問題性について

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業のレジュメや資料をよく読み、課題に取り組むこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	70% 学期末レポート
平常点	30% 授業中に行なう課題
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

「平常点」とは「課題」を指す。いわゆる「出席点」ではない。授業中の課題を3分の1以上提出していない(5回以上提出していない)受講生は単位放棄とみなし、学期末のレポートの提出を認めない。
「学期末レポート」はmanabaを通して提出してもらう。
この授業は対面で行なうが、授業中の課題はmanabaで解答してもらう。スマホで構わないので、受講生はmanabaに接続できる環境を整えておくこと。なお、授業の進捗に合わせて、解答時間を設定するため、課題提出の時刻は毎回の授業で異なる(とはいえ、授業中に指示し、解答する時間を取るため、授業に参加していれば、混乱することはないだろう)。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書(テキスト)は用いない。レジュメ・資料はPDFのファイルでmanabaを通じて配信する。
原則として、教室で紙の形態でレジュメや資料を配布することはない。受講生は各自でレジュメをプリントアウトして教室に持参するか、PCやタブレットにダウンロードして教室で参照できるようにすること。
参考文献は授業中に紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

講義で取り上げる資料には性的表現を用いたものもある。もともと、「性的」とは何かということを問いなおすようなものでもあるのだが、履修に際してはこの点に十分に注意すること。

ジェンダーに関連した他の授業も積極的に履修することが望ましい。
質問は、manabaの「個別指導」で受け付ける。

参考URL

備考

科目名： 国際理解教育論**担当教員： 見世 千賀子**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 金2

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED1-T702

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:3

更新者：AC9676

更新日時：2026-01-16 18:47:0

授業形式

対面

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

グローバル化の進行に伴い、教育の分野においては、改めて国際理解教育のあり方が問われている。本講義では、主に、外国人児童生徒教育や海外・帰国児童生徒教育の現状と課題を通して、グローバル化時代の学校教育のあり方について、検討していく。また、日本における国際理解教育への取り組みに焦点をあて、国際理解教育が求められてきた背景、それらに関する理念・政策の変遷、学校および地域社会における実践の状況を見る。比較の視点から、オーストラリア等、諸外国の多文化教育についても検討する。さらに、人権、開発、文化、エスニシティ、シティズンシップなど、国際理解教育の理念と実践に深く関わる概念を検討し、それらの理解を踏まえて、グローバル化時代に求められる国際理解教育のあり方を考察していく。

科目目的

「グローバル人材」の育成、「国際社会・グローバル社会に生きる児童生徒の育成」が現代的教育課題の一つとして言われているが、そもそも国際社会・グローバル社会に生きるとはどのようなことか、それに関する教育はどうあったらよいのか。多様な人々との共生に向けて異文化理解をすることが求められているが、「理解」をすることはどこまで可能なのだろうか。理解の先に求める意識変容や態度化、行動化はどうしたら実現できるだろうか。こうしたことを科目を通して考える。

到達目標

本講義では以下のことを到達目標とする。

- ・自己内の「外国」「異文化」像を認識する。
- ・国際理解教育に関する多様な領域や目標がわかる。
- ・いくつかの国際理解教育実践の事例から具体的な学習方法を学ぶ。
- ・授業終了時には、国際理解教育の概要を理解し、実践事例や教材から学んだ点を生かした取り組み素案をまとめることを目指す。

授業計画と内容

- 1 オリエンテーション:私の異文化体験
- 2 国際理解教育とは—内なる国際化・多文化共生、国際理解、自己理解・他者理解
- 3 日本社会の多文化化の現状と教育課題
- 4 日本の学校における外国人児童生徒の教育課題
- 5 外国人児童生徒教育と国際理解教育
- 6 海外で学ぶ子どもの教育事情
- 7 日本人学校における国際理解教育の現状と課題
- 8 現地校の学校で学ぶ子どもの異文化体験・アイデンティティ
- 9 帰国児童生徒の教育と課題
- 10グローバル人材の育成とは
- 11 オーストラリアの多文化教育
- 12多文化社会オーストラリアの市民性教育
- 13 国際理解教育とは何か—歴史的変遷
- 14SDGsと教育実践 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	40%	学期末に到達目標に照らし合わせ、授業内容をふまえて小論を書くことができる。
平常点	60%	授業後のコメントペーパーに自らの考えを授業をふまえて記述できる。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考文献: 日本国際理解教育学会編著『国際理解教育ハンドブック』明石書店、2015年。

オフィスアワー

その他特記事項

教育と国際理解の問題に強い関心があることを前提として授業を展開する。参加型の授業を展開することもあるので、誰とでもコミュニケーションをとることができることを基本的なスキルとして求める。国際活動、海外旅行体験の有無は問わない。

参考URL

備考

科目名： ボランティア論**担当教員： 山科 満**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：月1

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-OG1-T704

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:3

更新者：AA1029

更新日時：2025-12-31 21:43:5

授業形式

全ての授業は教室での対面授業です。この点について配慮を希望する方は、予め申し出てください。
第7回と第10回は、外部でのボランティア活動の時間とするため、教室での授業はありません。詳細は授業中に説明します。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現代社会においては、さまざまなボランティア活動が展開されており、ボランティアの貢献無しには成り立たない社会活動も少なくありません。この科目は、社会におけるボランティアの役割などについて総論的な講義を行うと共に、さまざまな現場でボランティア活動に従事しているボランティアリーダーやボランティアと協働しながら社会活動を展開しているNPO関係者などを講師に招き、各現場で求められるボランティア活動の内容について具体的に紹介し、学生がボランティア活動に関与する契機となるような授業を行います。授業で扱う領域は「地域社会」「子どもの育ち・教育」「障害福祉」「災害」など、多岐にわたっています。さまざまな社会問題は、一見全く別な事柄のようであっても、どこかで通底しているものです。足元の事象を見つめながら広く世界を見渡す姿勢を、この授業を通して身につけていただくことを願っています。

大学入学後にボランティア活動を行っていない方、ボランティア未経験の方は、学期末までに半日間のボランティア体験を行い、レポートを提出していただきます(ボランティアサークルなどで活動している方はそれをレポートにさせていただきます)。詳細は授業の初回にお話しします。

科目目的

1. 現代社会におけるボランティアの意義と役割について、学問的見地および実践的立場からの両面から理解する。
2. ボランティアの貢献を必要とする領域における社会的な課題と、その課題の中でボランティアに期待される役割とその限界について、授業とボランティア活動を通して、具体的に学ぶ。

到達目標

1. ボランティアが必要とされる領域の背景にある事情(社会問題)について知り、思考することをサボらない人になる。
2. 必要ならためらわず行動に移せるポテンシャルを身につける。

授業計画と内容

原則として対面授業を行います。

- 第1回 オリエンテーション、ボランティアとは何か①【中大VC、山科】
- 第2回 まちづくりと環境
【外部講師①】NPO法人フュージョン長池 理事長 田所喬氏
- 第3回 国際ボランティア
【外部講師②】NPO法人NICE 代表 開澤真一郎氏
- 第4回 児童養護施設で暮らす子どもへの支援
【外部講師③】児童養護施設杉並学園 心理職 江野肇氏
- 第5回 障がい者福祉
【外部講師④】社会福祉法人夢ふうせん 施設長 浅野大輔氏
- 第6回 外部活動日①(教室での授業は行いません)
- 第7回 生ごみを活用したコミュニティーガーデン
【外部講師⑤】せせらぎ農園 代表 佐藤美千代氏
- 第8回 国内での外国籍者支援
【外部講師⑥】NPO法人多文化共生センター東京 代表理事 梶木典子氏
- 第9回 東日本大震災の被災地に通い続けて 山科満
- 第10回 子どもの支援
【外部講師⑦】一般社団法人プレーワーカーズ 事務局長・理事 神林俊一氏
- 第11回 市民社会におけるボランティア(理論編)法学部・西亮太先生
- 第12回 市民社会におけるボランティア(実践編)神戸の経験から
【外部講師⑧】被災地NGO協働センター 顧問 村井雅清氏
- 第13回 まとめ・振り返り
- 第14回 外部活動日②(教室での授業は行いません)

外部講師の都合により、順番および内容の変更があります。詳細は授業中に適宜アナウンスします。
VC: 本学ボランティアセンター

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業後、簡単な小テストを受け、自由記述欄で「感想・質問」を記入し、当日23時55分までに提出して下さい。講師から返答があった場合など、必要に応じてレスポンスをスレッドに掲示します。山科がコメント機能を使って個別に返信する場合があります。学期末までに、合計3時間以上のボランティア活動を行い、レポートにまとめてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	30%	各回の授業のキーワードについての理解度を問うため、記述式のテストを行います。授業で話されたことが理解できていれば満点とします。
レポート	35%	実際に行ったボランティア活動について、ボランティア先の社会的な状況、自身の体験、ボランティア体験を通して自分の頭で考えたことを記述してください。ボランティアの内容については、何らかの社会課題に主体的にコミットしているか否かを見ますが、何であれ「やったこと」をまずは評価します。 中大のVC所属の団体や、学友会公認のボランティアサークルの学生は、自身のこれまでの活動記録などでレポートに代えることができます。
平常点	35%	レスポンスで出席を確認します。毎回の小テストでは、学んだことを確認するための記述問題を出します。講師のメッセージが正しく理解できていれば満点とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

出席はレスポンスでチェックします。小テストに記述が無い場合は、出席点はありません。小テストの内容が他者のものと類似している場合は、それぞれ減点します。出席における不正行為が発覚した場合は、成績評価の平常点は0点とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

学期中に、何らかのボランティア活動を自ら申し込んで行ってください。manabaの個人指導コレクションに、自身のボランティア活動の記録を書き込んでください。学期末に、その体験と考察をレポートにまとめて提出していただきます。

以下の人は、これまでに行ってきた活動報告をもって、レポートに代えることができます。

- ①ボランティアセンター所属の被災地支援学生団体のメンバーで実際に現地での支援活動に参加したことがある人
 - ②学友会公認のボランティアサークルで1年以上の活動経験のある人
 - ③その他、大学入学後に継続的にボランティア活動に従事している人
- 詳細は、授業中に指示します。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他

実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

資料の配付などは全てmanabaのコンテンツ機能を使って行います。
感想や質問など、manabaを通して寄せられたものには、スレッドや個別の返信機能を使って積極的にコメントをつけていきます。

実務経験のある教員による授業

✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

山科は、精神科医としてさまざまな現場で30年以上の臨床経験を有し、コロナ禍で現地に行けなくなった時期を除き、東日本大震災の被災地にボランティアとして年間20日前後通っていました。

実務経験に関連する授業内容

現場で聞いた被災者の「生の声」を、プライバシーに配慮しながら、お伝えします。

テキスト・参考文献等

参考文献:村井雅清著『災害ボランティアの心構え』SBクリエイティブ

オフィスアワー

その他特記事項

特別な事情無く初回授業を欠席した者は以後の履修を認めません。ただし、学生の熱意によってはその限りではないので、2枚目の授業の前までに授業担当教員とよく相談してください。

山科への連絡はメールで行って下さい。
m-yama@tamacc.chuo-u.ac.jp

参考URL

ボランティアセンター
<http://www.chuo-u.ac.jp/usr/volunteer/overview/>

大学の社会貢献:学生ボランティアの意義(山科)
<http://www.yomiuri.co.jp/adv/chuo/opinion/20140317.html>

備考

科目名：健康教育学**担当教員：渡邊 正樹**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：火2

配当年次：1～4年次担当

科目ナンバー：LE-HS1-T705

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:3

更新者：AC8315

更新日時：2026-01-09 23:40:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現代社会の主要な健康問題や健康づくりの考え方を取り上げ、健康問題を解決するための手法について学ぶ。なお健康問題に関連した映像(TVドキュメンタリー、映画など)を適宜用いる。

科目目的

健康に関する現代的課題を学ぶとともに、学校教育で健康教育を行う上で必要な知識を身につけることを目的とする。

到達目標

各時間に取り上げる健康に関する概念や課題について理解し、教員の立場として説明できるようにする。また自分自身の健康課題として認識し、課題解決を行うことができる能力を身につける。

授業計画と内容

- 1.健康とQOL
- 2.ヘルスプロモーションと健康づくり
- 3.健康格差と対策
- 4.がんとその対策
- 5.感染症とその予防
- 6.性行動と性感染症
- 7.精神疾患の実態と対策
- 8.薬物乱用防止
- 9.生殖医療
- 10.臓器移植
- 11.高齢者の健康
- 12.食の安全
- 13.ヘルスリテラシーの考え方
- 14.総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

指定したテキストを事前・事後に読み込むこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 期末試験については試験の点数の6割以上を合格基準とする。
レポート	30% 各回レポートの平均値を求める。提出のなかった回は0点とする。
平常点	0%

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

ただし欠席が3分の1を超えた場合は失格とする。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

基本的に授業で解説するが、必要に応じて資料を配布する。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末

✓ その他

実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業中にmanabaを活用することがあるが、その都度説明する。

実務経験のある教員による授業

はい

✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

渡邊正樹『健康教育ナビゲーター三訂版』(大修館書店)をテキストとして毎回使用する。

オフィスアワー

その他特記事項

リモート授業を用いる必要が生じた場合は、オンデマンドではなくリアルタイム配信で行う予定である。リモート授業となった場合は最終試験もレポート提出に代えることがある。

参考URL

備考

科目名：人文地理学概説／人文地理学(1)

担当教員：亀井 啓一郎

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：木2

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-GG1-T801

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:3

更新者：AC7670

更新日時：2026-01-12 01:10:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

地理学は地域の人文・社会・自然現象を総合的に把握してその性格や特色を明らかにし、地域の成り立ちや空間分布、地域構造を考察することを目的とした学問である。このうち人文地理学においては、人間の諸活動の地域的分布や相互関係、生活様式などを考察していくことを目的としている。

この科目では、まず世界の広がりという視点から、われわれ人類がどのように世界を見てきたのかについて講義を行う。続いて、軽井沢や小京都、湘南など日本の諸地域の姿に焦点をあてた講義を行う。最後に現代日本の姿として、交通や商業に関する講義を行う。高等学校で「地理」を履修しなかった学生にも理解できるように、人文地理学の基礎的な内容にもふれる予定である。地図帳を持参すること。

科目目的

この科目は、カリキュラム上の総合教育科目に位置付けられることから、幅広い教養を身に付けることを目的とする。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とする。

- (1) 人文地理学的な見方・考え方を学ぶとともに、一般常識としての「地理」の知識や教養を身に付けることができるようになること
- (2) 地図を正しく読むことができるようになること
- (3) 地域のことを正しく理解できるようになること

授業計画と内容

- 第1回 授業ガイダンス、授業方針の説明
- 第2回 世界の広がり(1)世界地図の発達と歴史
- 第3回 世界の広がり(2)世界地図に描かれた日本
- 第4回 世界の広がり(3)日本地図の発達と歴史
- 第5回 日本の諸地域の姿(1)広がる軽井沢
- 第6回 日本の諸地域の姿(2)小京都の分布
- 第7回 日本の諸地域の姿(3)小江戸と城下町
- 第8回 日本の諸地域の姿(4)湘南の範囲
- 第9回 現代日本の姿(1)鉄道交通の発達と展開
- 第10回 現代日本の姿(2)赤字ローカル線と新幹線
- 第11回 現代日本の姿(3)百貨店の発展
- 第12回 現代日本の姿(4)大規模小売店舗の展開
- 第13回 現代日本の姿(5)日本の公園
- 第14回 授業のまとめと補足説明

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70%
レポート	0%
平常点	30%
その他	0%

持込不可。授業内容を理解した上で、地理学の見方・考え方を説明できるかどうかを評価する。

授業への参加(リアクションペーパー、受講態度)から評価する。

成績評価の方法・基準(備考)

授業に出席することが単位取得の最低条件である。
出席日数が全体の2/3に満たない場合にはE判定とする。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

responを使用する。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

responを使用する。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

プリントを配布する。
地図帳(山川出版社(旧・二宮書店)や帝国書院など)があるとよい。

オフィスアワー

その他特記事項

当然のことながら、授業中の私語・私事は禁止である。
授業の進行の妨げとなる行為を行う者の履修はお断りする。
なお、2020年度入学生までは「人文地理学(1)」、2021年度以降の入学生は「人文地理学概説」となっている。

～2021年度以降入学生の教職課程履修者(履修予定者含む)へ～

「中学(社会)」・「高校(地歴)」の免許を修得するためには、当科目ではなく、
教職課程に開講されている「人文地理学(教職)」を履修する必要があるので注意すること。
詳細は履修要項を確認すること。

参考URL

備考

科目名： 地図と地域／人文地理学(2)**担当教員： 亀井 啓一郎**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：木2

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-GG1-T802

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:3

更新者：AC7670

更新日時：2026-01-12 01:10:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

地図は地表面上の諸事象を記号として表現したものである。地図には地域のさまざまな情報が書き込まれており、その情報を読み解くことで地域のさまざまな姿を理解することができる。地理学の研究において、地図を使用することは必要不可欠なことであり、地図を使用しない地理学はないとも言える。他分野においても地図を使用することは有益なことである。

この科目ではまず地図の概念について講義する。続いてさまざまな地図に関して、地図の様式や形態、表現方法に関する講義を行い、続いて国土地理院作成の地図に関する講義を行う。最後に地図を用いて、江戸・東京の発達過程についての講義を行う。

科目目的

この科目は、カリキュラム上の総合教育科目に位置付けられることから、幅広い教養を身に付けることを目的とする。

到達目標

- この科目では、以下を到達目標とする。
- (1) 地理学における地図の概念を理解できるようになること
 - (2) 地図を正しく読むことができるようになること
 - (3) 地域のことを正しく理解できるようになること

授業計画と内容

- 第1回 授業ガイダンス、授業方針の説明
- 第2回 地図の概念(1) 地図とは何か
- 第3回 地図の概念(2) 地図の分類と種類
- 第4回 さまざまな地図(1) 地図と空中写真
- 第5回 さまざまな地図(2) 鳥瞰図など
- 第6回 さまざまな地図(3) ハザードマップなど
- 第7回 国土地理院の地図(1) 地形図と地理院地図
- 第8回 国土地理院の地図(2) 図式と地図記号
- 第9回 江戸・東京の変遷(1) 江戸から東京へ
- 第10回 江戸・東京の変遷(2) 首都・東京
- 第11回 江戸・東京の変遷(3) 江戸の地図
- 第12回 江戸・東京の変遷(4) 江戸の町とは
- 第13回 江戸・東京の変遷(5) 江戸の都市構造
- 第14回 授業のまとめと補足説明

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 持込不可。授業内容を理解した上で、地理学の見方・考え方を説明できるかどうかを評価する。
レポート	0%
平常点	30% 授業への参加(リアクションペーパー、受講態度)から評価する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

授業に出席することが単位取得の最低条件である。
出席日数が全体の2/3に満たない場合にはE判定とする。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

responを使用する。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

responを使用する。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

プリントを配布する。
地図帳(山川出版社(旧・二宮書店)や帝国書院など)があるとよい。

オフィスアワー

その他特記事項

当然のことながら、授業中の私語・私事は禁止である。
授業の進行の妨げとなる行為を行う者の履修はお断りする。
なお、2020年度入学生までは「人文地理学(2)」、2021年度以降の入学生は「地図と地域」となっている。

参考URL

備考

科目名： 日本地誌学**担当教員： 坪本 裕之**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 月1

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-GG1-T803

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:3

更新者：AC3603

更新日時：2026-01-10 10:55:5

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

少子高齢化の中、持続的な社会経済の構築にむけて生活空間の再興が求められています。しかし、ミクロな地理的空間である生活環境も、よりマクロな大都市スケール、国土スケール、さらにはグローバルなスケールの空間の動きと密接な関係にあります。この講義では、身近な生活空間の課題を考える上で関係の深い上位の空間である、大都市東京の形成・変容過程について、自然環境をベースとして、雇用の場としての産業の立地、そして居住の場の形成の関係性から検討していきます。主として20世紀以降の大都市圏が形成され、少子高齢化や経済のグローバル化を踏まえた近年の動向も併せて解説し、都市拡大・再編過程と昨今の地域問題との関連性についても検討します。

科目目的

20世紀以降、地理的に拡大した大都市東京の発展過程について、地理学の基礎的な概念を基盤として解説します。なお、この講義で扱う期間は主に20世紀以降とし、東京の範囲は日常的な生活行動圏である東京大都市圏とします。2000年以降の東京の変化についても触れ、近年多発する大規模災害とコロナ禍における社会経済的影響を考慮し、今後の都市や生活空間のありようを展望します。

到達目標

到達目標は、以下の3点とします。

- (1) 地理学の基礎概念や大都市の地理的拡大・変容プロセスを理解し、それらを踏まえて地域のローカルな現状、問題を説明できること
- (2) 自然条件や人々の営みを理解し、考慮しながら説明できること
- (3) 地理学的な図表を読み込み理解出来ること、を到達目標とする。

授業計画と内容

講義スケジュール 各回の概要は、以下の通りである。

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 大都市の都市地理学的見方
- 第3週 東京の自然環境: 地図の読み込み
- 第4週 東京の自然環境: 地形の成り立ち
- 第5週 東京の自然環境と人々の暮らし
- 第6週 「東京」の拡大前夜
- 第7週 「東京」の拡大と郊外電車の発達
- 第8週 東京の工業都市化: 工業立地の理論的考察と臨海工業地帯の成立
- 第9週 東京の工業都市化: 工業生産の広域化と武蔵野台地の都市化
- 第10週 ホワイトカラーの就労の場としての東京
- 第11週 多摩丘陵における都市化の過程
- 第12週 多摩丘陵住宅地の高齢化プロセス
- 第13週 都市再生期における都心回帰
- 第14週 総括: 現状の地域問題

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

地理院地図などで授業で扱った場所を確認すること、授業で扱った内容について、自分の生活する範囲で起こっている事象と比較して考えてみたり、資料を集めたり、観察すること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	70%	最終課題としてレポートを課します。内容は「その他特記事項」を参照してください。評価基準は、授業の内容を踏まえて対象地域を各自で決定し、地形図をもとに地域の様子を推察した上で、現地の観察を行い、地域の現状や問題を説明できている、とします。
レポート	30%	最終課題レポートに向けた準備を兼ねて、作業レポート課題を課します。その提出状況を授業の出席点として上限30%の範囲内で加算します。
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

最終レポートの内容・方法については、状況次第で変更する可能性もありますので、授業での指示に従ってください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

この授業は、基本的に対面の授業を行います。ただし、授業中や課題で「地理院地図」をはじめとするweb地形図や配布する資料(特に、地図)の読み込みを行いますので、タブレット端末やノート型パソコンなど、大きな画面をもつハードウェアの利用を勧めます(スマートホンの画面ではやや厳しいです)。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト:特に指定しません。基本的に、配布するレジュメ等に従って授業を進めます。他必要があれば、講義中に指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

最終課題レポートは、授業の目的に従って大学周辺や居住する地域の現状や、起きている問題に関する内容を予定しています。日々生活をしている中での「気づき」や新聞の地方面の記事などに日頃から留意しておく方が良いと思います。

参考URL

備考

科目名： 世界地誌学**担当教員： 武田 竜一**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 土2

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-GG1-T804

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:3

更新者：AD2361

更新日時：2025-12-18 18:03:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

地誌学は、地球上のさまざまな地域の諸相を知り、その地域の全体像を明らかにすることをめざしてきた。グローバル化が進行する以前は、人々が知りうる世界の情報は限られており、地誌学の研究成果は現代に比べて重要性をもっていた。情報化が進む現代の社会において、地誌学の果たすべき役割とは何か、検討していきたい。

科目目的

福沢諭吉は『世界国尽』を著し、当時の世界を描いた。「ところ変わればしな変わる」とはどういう意味なのか、テキストの記載内容に触れながら福沢がとらえた世界像を具体的に検討する。

到達目標

地理学のひとつの柱である地誌学に関する基本的な知識を得るとともに、現代世界がかかえるさまざまな課題を理解する。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス・福沢諭吉が著した『世界国尽』とは？
- 第2回 アジア(1) 朝鮮半島
- 第3回 アジア(2) 中国
- 第4回 アジア(3) 東南アジア
- 第5回 アジア(4) 南アジア
- 第6回 アジア(5) 西アジア
- 第7回 アジア(6) 中央アジア
- 第8回 アフリカ(1) 南アフリカ
- 第9回 アフリカ(2) ケニア
- 第10回 ヨーロッパ
- 第11回 北アメリカ
- 第12回 南アメリカ
- 第13回 オセアニア
- 第14回 まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業を通じて学んだことを復習するとともに、日頃から社会で起きているできごととその背景に関心をもつこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験 80% 60分間で100点満点の試験を実施する。テキストの持ち込み可。レポートなどによる代替はない。

レポート 0%

平常点 20% 授業への参加とリアクションペーパーの記載内容をもとに総合的に判断する
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

受講者数によっては、テキストの内容について担当を決めてレポートを課す場合がある。その場合は、レポート発表の内容を平常点に加味する。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト

地理教育研究会編『地理で読み解く現代世界—授業のための世界地理—』古今書院、2025年

テキストは必ず購入すること(期末試験ではテキストの持ち込みを可とする)。

高校時代に使用していた地図帳を持参して欲しい。

オフィスアワー

その他特記事項

土曜日の設定であるが、継続して授業に参加する意志がある者が受講して欲しい。

毎時間映像を視聴しながら、現代の世界の実態に迫る。

基本的な授業を受けるマナーを守ること。

参考URL

備考

科目名： 自然地理学／自然地理学(1)**担当教員： 亀井 啓一郎**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：木1

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-GG1-T806

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:3

更新者：AC7670

更新日時：2026-01-12 01:10:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

地理学は地域の人文・社会・自然現象を総合的に把握してその性格や特色を明らかにし、地域の成り立ちや空間分布、地域構造を考察することを目的とした学問である。このうち自然地理学においては地球上の自然現象そのものにとどまらず、人間生活との関わりの中から自然環境について考察していくことを目的としている。

この科目では、まず地球の大きさと表し方について講義する。続いて、世界の大陸や海洋、気候などについて講義を行う。さらに日本の地形や河川、気候、季節感などの講義を行う。高等学校で「地理」を履修しなかった学生にも理解できるように、自然地理学の基礎的な内容にもふれる予定である。

科目目的

この科目は、カリキュラム上の総合教育科目に位置付けられることから、幅広い教養を身に付けることを目的とする。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とする。

- (1) 自然地理学的な見方・考え方を学ぶとともに、一般常識としての「地理」の知識や教養を身に付けることができるようになること
- (2) 地図を正しく読むことができるようになること
- (3) 地域のことを正しく理解できるようになること

授業計画と内容

- 第1回 授業ガイダンス、授業方針の説明
- 第2回 地球の形(1) 地球の大きさとその形(緯度・経度と時差)
- 第3回 地球の形(2) 地球の表し方(図法・投影法)
- 第4回 世界の自然環境(1) 地球の表面
- 第5回 世界の自然環境(2) 海水の流れ
- 第6回 世界の自然環境(3) 世界の気候1(気候区分)
- 第7回 世界の自然環境(4) 世界の気候2(各気候帯の特徴)
- 第8回 日本の自然環境(1) 日本の地形
- 第9回 日本の自然環境(2) 日本の河川
- 第10回 日本の自然環境(3) 水循環と水利用
- 第11回 日本の自然環境(4) 日本の気候と気候区分
- 第12回 日本の自然環境(5) 日本人の季節感
- 第13回 日本の自然環境(6) 自然保護と環境保全
- 第14回 授業のまとめと補足説明

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 持込不可。授業内容を理解した上で、地理学の見方・考え方を説明できるかどうかを評価する。
レポート	0%
平常点	30% 授業への参加(リアクションペーパー、受講態度)から評価する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

授業に出席することが単位取得の最低条件である。
出席日数が全体の2/3に満たない場合にはE判定とする。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

responを使用する。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

responを使用する。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

プリントを配布する。
地図帳(山川出版社(旧・二宮書店)や帝国書院など)があるとよい。

オフィスアワー

その他特記事項

当然のことながら、授業中の私語・私事は禁止である。
授業の進行の妨げとなる行為を行う者の履修はお断りする。
なお、2020年度入学生までは「自然地理学(1)」、2021年度以降の入学生は「自然地理学」となっている。

～2021年度以降入学生の教職課程履修者(履修予定者含む)へ～
「中学(社会)」・「高校(地歴)」の免許を修得するためには、当科目ではなく、
教職課程に開講されている「自然地理学(教職)」を履修する必要があるので注意すること。
詳細は履修要項を確認すること。

参考URL

備考

科目名：アーカイブズ概論

担当教員：荒船 俊太郎

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：火3

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-PL1-T807

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:3

更新者：AD0084

更新日時：2026-01-03 10:10:5

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

アーカイブズをめぐる議論と研究は多岐にわたっており、短期間で論じ尽くすことはできません。そこで本講義では、特に重要な、①アーカイブズの学問的な沿革(歴史)、②アーカイブズを管理保存する公文書館とその業務、③文書館の担い手である専門職員(=アーキビスト)、④大学アーカイブズ、⑤その他(アーカイブズをめぐる近年の動向)にしぼって、映像資料や新聞資料を交えて講義します。それにより、アーカイブズの果たす役割を学び、本学問領域の今後の可能性についての理解を深めます。

科目目的

アーカイブズ(archives)という言葉をご存知でしょうか。みなさんには、Instagramやyoutubeの機能としておなじみかもしれません。ニュースやインターネット上で散見されるようになったこの言葉には、記録・記録保管所(=公文書館)・古文書・デジタルデータといった多様な意味が含まれています。より専門的には、アーカイブズとは、将来にわたって保存すべき大切な文書や記録類を指し(=役人の世界では「歴史公文書」)、それらを管理保存する公文書館等の施設、さらに文書館の機能や文書管理システム全体を指す言葉としても用いられており、これらを多角的に研究する学問のことをアーカイブズ学(記録史料学)といいます。本学問領域は、近年(とりわけこの30年ほどの間に)その重要性が喚起され、急速に議論が深められてきました。

そこで本講義では、アーカイブズにかかわる諸問題を紹介・検討し、当該学問領域に関する基礎的な知識の修得を目指します。これにより、公文書館の制度や文書資料の管理体制、そこで働く専門職員(=アーキビスト)に対する理解を深め、公文書を軸とする記録管理の徹底が民主主義社会の成熟と発展に寄与するとの認識を深めていただくことを目的とします。

到達目標

- ・アーカイブズ(archives)が持つ「複数の意味」(3つ)を正確に理解する。
- ・日本における、公文書を中心とする記録管理の沿革と現状を把握する。
- ・昨今の時事問題に、本学問領域が密接に関わっていることを理解し、説明できるようになる。
- ・戦後民主主義の成熟と運用に、本学問が密接に関わっていることを理解する。

授業計画と内容

- 第01回 ガイダンス: 講義の進め方と成績評価方法の紹介・導入
- 第02回 アーカイブズとは何か
- 第03回 アーカイブズの歴史①: 世界における文書館制度の沿革
- 第04回 アーカイブズの歴史②: 日本における文書館制度の導入と展開
- 第05回 公文書と公文書館
- 第06回 公文書館の業務①: 資料の管理システム
- 第07回 公文書館の業務②: 評価選別と編成・記述
- 第08回 専門職員(アーキビスト)とその育成
- 第09回 資料の保存と修復
- 第10回 大学アーカイブズ①: 本学の取り組み
- 第11回 大学アーカイブズ②: 他大学の取り組み
- 第12回 戦争(災害)とアーカイブズ
- 第13回 まとめとアーカイブズをめぐる時事問題
- 第14回 到達度確認

※受講生の人数や講義の進度により、シラバス内容を変更する場合があります。

10回目と11回目については、内容が入れ替わる場合があります。

寄せられたご意見やご質問については、なるべく翌週の冒頭に回答します。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出

その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

録画等による復習を希望される場合は、ご相談ください。視聴可能な教材もあります。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 最終回の授業時間に、到達度確認の期末試験をお願いする予定です(70点)。
レポート	0%
平常点	30% 毎回リアクションペーパーを提出していただきます(全13回、各回3点)。最大30点
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

respon等で毎回出席をとります。その他、manabaで感想・疑問・質問等を記入していただきます(全13回)。参加人数により、リアクションペーパーを配布して記入していただく可能性もあります。それらを理解状況の判断に利用します。的確なご意見には1~3点を付与します(=平常点、最大30点)。その上で、最終回の授業内に、到達度確認(期末試験、70点、試験時間は1時間)を実施します。双方を合計し60点以上を合格とします。但し、授業回数の3分の2以上の「出席」が単位習得の条件となります(9回以上対面授業に参加することが成績評価の最低条件。6回欠席の場合は自動的に出席不足で不合格)。ご注意ください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

お問い合わせに対しては、manabaのコレクション機能かメール(ashuntaro001o@g.chuo-u.ac.jp)で対応します。その上で、全員に周知が必要と判断される場合には、manabaないし翌週に教室で周知します。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

・授業中に随時質疑応答の時間を取り入れます。また前週の疑問質問に対しては、翌週の冒頭で時間の許す限り回答(解説)します。
・オンライン授業に切り替わる場合には、webexのチャット機能を活用し、クイズを出したり、積極的な意見交換に努めます(非常時限定、通常は対面のみ)。

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

- ・随時質疑応答の時間を取り入れます。
- ・responで出席をとります。
- ・毎回manabaでリアクションペーパーをお願いします。感想等を書いて提出していただきます。
- ・manabaの掲示板を随時活用します。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

担当講師は、他大学の資料保存機関(公文書館類似施設)での勤務経験(アーキビスト・学芸員)があります。
勤務内容:資料整理・レファレンス・展示会の企画運営・資料調査・資料集編集・紀要等刊行物の編集・講演会開催など。

実務経験に関連する授業内容

これらの経験をもとに、近年の本学問領域が抱える問題点を浮かび上げさせながら、分かりやすい授業づくりに努めます。

テキスト・参考文献等

毎回資料を配布するのでテキストは指定しません。平易な文献としては、
松岡資明『アーカイブズが社会を変える』(平凡社新書、2011年)
榎澤 幸広ほか共著『公文書は誰のものか?』(現代人文社、2019年)
瀬畑源『公文書管理と民主主義』(岩波ブックレット、2019年)
大阪大学アーカイブズ編『アーカイブズとアーキビスト - 記録を守り伝える担い手たち』
(大阪大学出版会、2021年)
下重直樹・湯上良『アーキビストとしてはたらく - 記録が人と社会をつなぐ』(山川出版社、2022年)
新井浩文『文書館のしごと-アーキビストと史料保存』(吉川弘文館、2024年)

大学共同利用機関法人 国文学研究資料館編『アーカイブズ学入門』(勉誠社、2024年)

体系的な研究文献としては、
アーカイブズ学用語研究会編『アーカイブズ学用語辞典』(柏書房、2024年)
国文学研究資料館史料館編『アーカイブズの科学』上下巻(柏書房、2003年)
小池聖一『アーカイブズと歴史学 - 日本における公文書管理』(刀水書房、2020年)
などをご覧ください。

オフィスアワー

その他特記事項

本学問領域は図書館学・博物館学と密接に関係します。司書や学芸員を目指す方々の参加を歓迎します。もちろん、他学部方の参加も歓迎します(過去には、法学部・経済学部・商学部・総合政策学部等からの参加あり)。

参考URL

備考

科目名： 日本史**担当教員： 柳澤 誠**

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 水5

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-HT1-T808

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:57:3

更新者： AC9089

更新日時： 2026-01-12 21:31:5

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

- 日本列島にヒトの痕跡がみられはじめる約4万年前から西暦2000年代までを取りあげ、列島に成立した政治権力や社会が何を契機として、どのように変遷したかに注目して講義する。

科目目的

- さまざまな歴史資料によって明らかにされている日本列島およびその周辺で起こった出来事、出来事の因果関係や人間活動の所産(文物)を探ることで、それらの意味を知り理解する。

到達目標

- 1 日本史を専門外とする受講者や日本史に興味がない受講者が学問的関心を持つ／取り戻す。
- 2 受講者自身が主に日本史の分野で知見を広げようとする際に必要となる基礎知識を得る。
- 3 時代の変遷と各時代の特徴を的確にとらえ、理解できるようにする。

授業計画と内容

- 第1回 講義の概略説明と中央大学多摩キャンパス周辺の歴史
- 第2回 旧石器時代・縄文時代の日本列島
- 第3回 小国分立・古墳の出現とヤマト政権
- 第4回 中央集権国家の成立
- 第5回 奈良・平安時代の政治体制と土地制度
- 第6回 武士の登場と成長、武家政権の成立
- 第7回 鎌倉幕府執権政治の展開・南北朝内乱
- 第8回 武家領主の成長と戦国時代
- 第9回 織豊統一政権・江戸幕府の成立
- 第10回 幕藩体制と政治改革
- 第11回 幕末情勢と幕藩体制の終焉、近代国家の始動
- 第12回 近代国家日本と戦争
- 第13回 アジア・太平洋戦争と戦後占領統治
- 第14回 戦後復興・経済成長・経済大国化

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- 毎回授業終了後にmanabaで小テストか小レポートを出題します。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	50%	レポートを出題する。参考資料を適切に用い、用語を駆使して日本史の叙述ができるかどうかを評価する。
レポート	0%	
平常点	50%	小テスト・小レポートで内容理解度をはかる。小テストは80点以上を目標にして取り組んでほしい。出席状況も平常点の評価に含める。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

- 期末試験(レポート)の内容は実施前に告知します。
- 期末試験(レポート)を提出しない場合はE判定となるので注意すること。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

- 授業内容に関する疑問点等の質問はmanabaでも回答します。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- 毎回、資料を配布します(manabaの「コースニュース」にアップロード)。配布資料を作成するために参考にした文献等は資料内に記載します。

オフィスアワー

その他特記事項

- 質問・連絡等はmanabaの「個別指導(コレクション)」から送付してください。
- 歴史系展示がある博物館施設で展示を見学し、考古資料や民具、古文書などの観察をとおして理解を深めてほしい。

参考URL

備考

この科目は教職(社会、地理歴史)の必修科目です。

科目名: 日本史

担当教員: 柳澤 誠

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 水4

配当年次: 1~4年次担当

科目ナンバー: LE-HT1-T808

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:57:3

更新者: AC9089

更新日時: 2026-01-12 21:49:5

授業形式

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

- 日本列島にヒトの痕跡がみられはじめる約4万年前から西暦2000年代までを取りあげ、列島に成立した政治権力や社会が何を契機として、どのように変遷したかに注目して講義する。

科目目的

- さまざまな歴史資料によって明らかにされている日本列島およびその周辺で起こった出来事、出来事の因果関係や人間活動の所産(文物)を探ることで、それらの意味を知り理解する。

到達目標

- 1 日本史を専門外とする受講者や日本史に興味がない受講者が学問的関心を持つ／取り戻す。
- 2 受講者自身が主に日本史の分野で知見を広げようとする際に必要となる基礎知識を得る。
- 3 時代の変遷と各時代の特徴を的確にとらえ、理解できるようにする。

授業計画と内容

- 第1回 講義の概略説明と中央大学多摩キャンパス周辺の歴史
- 第2回 旧石器時代・縄文時代の日本列島
- 第3回 小国分立・古墳の出現とヤマト政権
- 第4回 中央集権国家の成立
- 第5回 奈良・平安時代の政治体制と土地制度
- 第6回 武士の登場と成長、武家政権の成立
- 第7回 鎌倉幕府執権政治の展開・南北朝内乱
- 第8回 武家領主の成長と戦国時代
- 第9回 織豊統一政権・江戸幕府の成立
- 第10回 幕藩体制と政治改革
- 第11回 幕末情勢と幕藩体制の終焉、近代国家の始動
- 第12回 近代国家日本と戦争
- 第13回 アジア・太平洋戦争と戦後占領統治
- 第14回 戦後復興・経済成長・経済大国化

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- 毎回、授業終了後にmanabaから小テストか小レポートを出題します。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% レポートを出題する。参考資料を適切に用い、用語を駆使して日本史の叙述ができるかどうかを評価する。
レポート	0%
平常点	50% 小テスト・小レポートで内容理解度をはかる。小テストは80点以上を目標にして取り組んでほしい。出席状況も平常点の評価に含める。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

- 期末試験(レポート)の内容は実施前に告知します。
- 期末試験(レポート)を提出しない場合はE判定となるので注意すること。

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

- 授業内容に関する疑問点等の質問はmanabaでも回答します。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリックカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- 毎回、資料を配布します(manabaの「コースニュース」にアップロード)。配布資料を作成するために参考にした文献等は資料内に記載します。

オフィスアワー

その他特記事項

- 質問・連絡等はmanabaの「個別指導(コレクション)」から送付してください。
- 歴史系展示がある博物館施設で展示を見学し、考古資料や民具、古文書などの観察をおして理解を深めてほしい。

参考URL

備考

この科目は教職(社会、地理歴史)の必修科目です。

科目名： 外国史**担当教員： 鹿野 美枝**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 火2

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-HT1-T809

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:3

更新者：AD1273

更新日時：2026-01-11 00:16:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現在は過去の積み重ねの上であり、歴史を知ることが現代の世界のなりたちを知る上でも極めて重要である。本科目では古代から現代に至る世界の歴史を扱うが、細かい知識の修得を目的とするのではなく、歴史の全体像を俯瞰することで歴史的なものの見方を学び、現代の世界に対する多様な理解をできるようにしていく。また、一面的な歴史観を乗り越えるため、問いを立てることにひとつの重点をおく。

科目目的

世界史を学ぶことで、歴史的観点から物事を把握する力を養う。
グローバル化の進む現代世界において異なる世界の歴史を学ぶことで、異文化に対する理解を深め、多角・多層的、批判的に物事を考える力を身につける。

到達目標

歴史を学ぶことで、長期的で多角的な視野を身につける。
歴史上の史資料を読み解いていくことで、情報リテラシーを身につける。
様々な歴史観・世界観を知ること、批判的な思考をできるようにする。

授業計画と内容

- 第1回：イントロダクション(授業の概要説明)、なぜ世界史を学ぶのか
- 第2回：古代文明・古代帝国と地域世界の形成
- 第3回：地域世界の再編
- 第4回：海陸の交流とモンゴル帝国
- 第5回：近世世界のはじまり
- 第6回：大航海時代
- 第7回：アジア伝統社会の成熟
- 第8回：ヨーロッパの奇跡
- 第9回：近代化の広がり
- 第10回：アジア諸地域の動揺と諸改革
- 第11回：帝国主義とアジアのナショナリズム
- 第12回：第二次世界大戦とアジア太平洋戦争
- 第13回：冷戦と脱植民地化の時代
- 第14回：激変する現代世界、あらためて歴史を学ぶ意義(まとめ)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

あらかじめテキスト(教科書)の該当箇所を目を通しておくこと。
各回の授業前後には、用語・事項などの不明点や疑問点を、辞書・辞典等を用いて自ら調べること。
興味あるテーマ・トピックについては、授業内で適宜紹介する参考文献等にあたり、積極的に学習し自らの理解を深めてほしい。また、学術書に限らず、ひろく関連する小説や映画等、時事・文化ニュースなども紹介するので、各自も日常から関連するニュースに広く関心をもってほしい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	60% 授業内容の理解度をはかる。
平常点	40% 毎回の授業でコメントシート(リアクションペーパー)を提出してもらおう。たんなる感想ではなく、自分なりの考えを表現できるかを重視する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト(教科書):
大阪大学歴史教育研究会編『市民のための世界史 改訂版』大阪大学出版会、2024年、ISBN:9784872598001
参考書:
北村厚『教養のグローバル・ヒストリー 大人のための世界史入門』ミネルヴァ書房、2018年、ISBN:9784623082889
その他参考書は各講義の時間に紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目は教職(社会、地理歴史)の必修科目です。

科目名： 外国史**担当教員： 鹿野 美枝**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：水3

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-HT1-T809

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:3

更新者：AD1273

更新日時：2026-01-11 00:16:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現在は過去の積み重ねの上であり、歴史を知ることが現代の世界のなりたちを知る上でも極めて重要である。本科目では古代から現代に至る世界の歴史を扱うが、細かい知識の修得を目的とするのではなく、歴史の全体像を俯瞰することで歴史的なものの見方を学び、現代の世界に対する多様な理解をできるようにしていく。また、一面的な歴史観を乗り越えるため、問いを立てることにひとつの重点をおく。

科目目的

世界史を学ぶことで、歴史的観点から物事を把握する力を養う。
グローバル化の進む現代世界において異なる世界の歴史を学ぶことで、異文化に対する理解を深め、多角・多層的、批判的に物事を考える力を身につける。

到達目標

歴史を学ぶことで、長期的で多角的な視野を身につける。
歴史上の史資料を読み解いていくことで、情報リテラシーを身につける。
様々な歴史観・世界観を知ること、批判的な思考をできるようにする。

授業計画と内容

- 第1回：イントロダクション(授業の概要説明)、なぜ世界史を学ぶのか
- 第2回：古代文明・古代帝国と地域世界の形成
- 第3回：地域世界の再編
- 第4回：海陸の交流とモンゴル帝国
- 第5回：近世世界のはじまり
- 第6回：大航海時代
- 第7回：アジア伝統社会の成熟
- 第8回：ヨーロッパの奇跡
- 第9回：近代化の広がり
- 第10回：アジア諸地域の動揺と諸改革
- 第11回：帝国主義とアジアのナショナリズム
- 第12回：第二次世界大戦とアジア太平洋戦争
- 第13回：冷戦と脱植民地化の時代
- 第14回：激変する現代世界、あらためて歴史を学ぶ意義(まとめ)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

あらかじめテキスト(教科書)の該当箇所を目を通しておくこと。
各回の授業前後には、用語・事項などの不明点や疑問点を、辞書・辞典等を用いて自ら調べること。
興味あるテーマ・トピックについては、授業内で適宜紹介する参考文献等にあたり、積極的に学習し自らの理解を深めてほしい。また、学術書に限らず、ひろく関連する小説や映画等、時事・文化ニュースなども紹介するので、各自も日常から関連するニュースに広く関心をもってほしい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	60% 授業内容の理解度をはかる。
平常点	40% 毎回の授業でコメントシート(リアクションペーパー)を提出してもらおう。たんなる感想ではなく、自分なりの考えを表現できるかを重視する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト(教科書):
大阪大学歴史教育研究会編『市民のための世界史 改訂版』大阪大学出版会、2024年、ISBN:9784872598001
参考書:
北村厚『教養のグローバル・ヒストリー 大人のための世界史入門』ミネルヴァ書房、2018年、ISBN:9784623082889
その他参考書は各講義の時間に紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目は教職(社会、地理歴史)の必修科目です。

科目名： 運動の生理と医科学**担当教員： 加納 樹里**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 火1

配当年次：1～4年次担当

科目ナンバー：LE-HS1-T903

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:3

更新者：AA9625

更新日時：2026-01-07 13:04:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

基本的には、授業計画に掲載したテーマについての講義形式である。
 対面授業では、毎時間末に行うQ&Aと、その時限の内容に関する小テスト(ショートレポート)により、出席と理解度をチェックし、同時に履修生からの要望や質問を記載してもらい、次回以降の授業に反映させる。

科目目的

競技力向上や、健康スポーツとしての体力増進に役立つ基本的な知識を身につけることを目的とする。

到達目標

トレーニングと身体に関する基本知識を身につけて、様々な媒体を通して見聞きする関連情報を、適正に把握・理解できるようにすること

授業計画と内容

- 1) イントロダクション: 体力科学が扱う領域(健康スポーツと競技スポーツ)
- 2) トレーニングの共通原則・トレーニングプランの考え方
- 3) 運動のエネルギー供給系
- 4) 身体組成と身体活動
- 5) 持久力の生理学的構成要素(基礎編)
- 6) 持久カトレーニングの実際(応用編)
- 7) 筋の構造と収縮のしくみ・筋肉の役割(基礎編)
- 8) 筋カトレーニングの実際(応用編)
- 9) 特殊環境下での運動と注意点(暑熱・寒冷・高地など)
- 10) アスリートのための食事と食育の基礎
- 11) スポーツ障害・外傷とその対応・測定評価の実際
- 12) コンディショニングの考え方と実際
- 13) メンタル・マネージメント(運動とこころ)
- 14) 授業の総括と授業評価他

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

オンライン対応が必要になった場合には、配布する授業資料に事前に目を通して授業に臨んでほしい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	70%	期末に筆記試験を行う
レポート	0%	
平常点	30%	授業時の小レポート提出(随時)により、対面授業時の出席状況を評価し、質問等にも対応する
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

成績評価の種別割合は、履修者数により若干変更することがある。初回授業時に口頭で説明する。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

対面授業が実施できない全学状況の場合にのみ、原則会議システムによる授業を行う。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

学外での運動・スポーツ指導や実習経験がある

実務経験に関連する授業内容

競技力向上から健康増進に至るまで、幅広い履修生の興味に極力答えるような授業設定としたい

テキスト・参考文献等

参考文献:
 ステップアップ運動生理学 和田正信編著 杏林書院(2018)
 健康スポーツ50講 中央大学保健体育研究所編 中央大学出版部

オフィスアワー

その他特記事項

講義科目のため、要望や疑問点については毎時のQ&Aの時間とショートレポートで対応する。

参考URL

備考

科目名: スポーツ社会学

担当教員: 高尾 将幸

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 木1

配当年次: 1~4年次配当

科目ナンバー: LE-HS1-T912

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:57:4

更新者: XEA602

更新日時: 2026-01-12 11:01:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業ではスポーツを社会学的な観点で理解することを目指す。前半部では、スポーツと社会構造の関係が中心的なテーマとなる。私たちがよく知っているスポーツが社会に制度化されていく歴史的・社会的背景を確認しつつ、社会構造の変化やマスメディアの登場によって近代スポーツが現代の変容を遂げるプロセスを学ぶ。また、オリンピックをはじめとするスポーツ・メガイイベントの歴史的な展開と現代的な課題について理解する。

後半部では、スポーツを通じた個人的経験のあり方がテーマとなる。身体、ジェンダー、セクシュアリティ、趣味、親子関係といったトピックを取り上げながら、私たちがスポーツを通していかに社会に関わるようになるのか、あるいは私たちの生がスポーツを媒介としながら、いかに社会によって規定されているのかを学んでいく。

科目目的

スポーツの歴史や現状に関する知識を提供しつつ、社会学的概念や理論を通してスポーツと社会の批判的理解の方法を解説することを目的とする。

到達目標

スポーツの歴史や現状に関する基本的な知識を身につけるとともに、社会学的概念や理論を通してスポーツを批判的に捉える思考力を修得する。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 近代スポーツとは何か
- 第3回 階級文化としての近代スポーツ
- 第4回 スポーツの現代化(1): ナショナリズム
- 第5回 スポーツの現代化(2): 大衆消費社会
- 第6回 スポーツ・メガイイベント(1): オリンピックの危機と転生
- 第7回 スポーツ・メガイイベント(2): レガシーを考える
- 第8回 スポーツとジェンダー/セクシュアリティ(1): 女性性とスポーツ
- 第9回 スポーツとジェンダー/セクシュアリティ(2): 男性性とスポーツ
- 第10回 身体と権力(1): 規律訓練
- 第11回 身体と権力(2): 生権力
- 第12回 趣味とは何か: 文化資本論
- 第13回 スポーツ・ペアレンティング
- 第14回 まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	80%	授業内に実施する到達度確認テストで授業で行った内容に関する理解度を評価する
レポート	20%	以下の観点で小レポートを評価する 1) 論理性 2) 独自性 3) 表現の正確性
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
 - ✓ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- ✓ タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業時間内に適宜指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： スポーツ教育論**担当教員： 中塚 義実**

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-HS1-T916

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:57:4

更新者： AD2028

更新日時： 2026-01-09 09:43:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

スポーツの教育的意義と、教育的側面ばかり強調されてきた(日本の)体育・スポーツのすがたについて、歴史社会学的な視点から学ぶ。スポーツと教育をめぐる今日的なトピックについては、国内外の学校や地域におけるさまざまな事例から学び、これからのスポーツと教育のあり方について考察する。

科目目的

この科目は、カリキュラム上の選択必修科目として位置付けられていることから、この科目での学習を通じて、学生が「スポーツの教育的意義」について認識を深めるとともに、「これからのスポーツ教育のあり方」を考えるうえでの基礎的な知識を習得することを目的としています。

到達目標

スポーツの教育的意義や価値について、自分の言葉で他者に説明できるようになることを求めます。
また、この授業で学んだことを実社会で実践できるようになってほしいと願います。

授業計画と内容

- 1時間目 オリエンテーションースポーツと教育について考える
- 2時間目 体育とスポーツ①ー近代体育の始まりと展開
- 3時間目 体育とスポーツ②ー文化としてのスポーツのすがた
- 4時間目 スポーツを通しての人間教育①ークーベルタンとオリンピズム
- 5時間目 スポーツを通しての人間教育②ー嘉納治五郎の思想と功績
- 6時間目 スポーツを通しての人間教育③ーオリンピック教育の現状と今後
- 7時間目 学校体育の可能性と課題①ーコロナ禍で見えたもの
- 8時間目 学校体育の可能性と課題②ー小中高12年間の体育の授業
- 9時間目 学校体育の可能性と課題③ー部活動で何を学ぶか
- 10時間目 学校体育の可能性と課題④ー学校行事で何を学ぶか
- 11時間目 地域におけるスポーツ教育ー部活動の地域展開をめぐって
- 12時間目 これからのスポーツ教育①ーレベルやニーズに応じた、安全・安心で無理・無駄のない活動を
- 13時間目 これからのスポーツ教育②ー人生100年時代を視野に入れて
- 14時間目 これからのスポーツ教育③ー遊び心を育むために

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業での配布資料を、授業終了後に読み込むこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 40% 14時間目までの内容を理解しているかレポートを行う。
- レポート 30% 各時間の終わりに実施するレポートで判断する。

平常点 30% 授業への参加・貢献度、受講態度をみて判断する。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
 - ✓ グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

筑波大学附属高等学校保健体育科教諭として、1987年4月より2025年3月までの38年間、体育の授業、部活動の顧問、行事運営の指導などに携わる。東京都サッカー協会フットサル委員(1994年度より現在に至る)や日本部活動学会理事(2020年度より現在に至る)など、学会や競技団体の仕事にもかかわる。また、「スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”」を“志”に掲げる特定非営利活動法人サロン2002では理事長として組織をまとめ、さまざまな事業に取り組んでいる。

実務経験に関連する授業内容

体育教師としての長年の経験を、本授業の「学校体育の可能性と課題」および「オリンピック教育の現状と今後」などで取り上げる。部活動学会理事として得た情報は「部活動の地域移行」のところで、またNPO法人サロン2002理事長としての経験は、本授業全体を通して学生に伝えることができる。

テキスト・参考文献等

毎回、レジュメ等の配布資料を用いて授業を行う。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 障害者スポーツ**担当教員： 日比野 暢子**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：木4

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-HS1-T919

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:4

更新者：AC3851

更新日時：2025-11-26 10:25:3

授業形式

・すべての授業をオンデマンドで行います。学生の皆さんは指定された期限内に、配信されるビデオをご覧になり、各回に出される課題に取り組み課題を提出して頂きます。課題提出により、出席となります。また毎回提出される課題、最終課題により総合的に授業評価がなされます。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

多様性が問われる現代、障害者もスポーツの領域において活躍する姿をメディアなどで見かけるようになりました。本講義は、障害のある人のスポーツを題材に、共生社会の構築に向けた取り組みや実践について検討し、基本的な知識を得ることを目的として開催します。具体的には、障害種別それぞれの特性、障害者のスポーツの動向と現状、障害の特性、障害者に対するスポーツ指導などを手掛かりに学びます。また、視覚障害などを事例に、障害のある人も使いやすい施設について演習をもって検討する時間を設けます。

科目目的

障害者のスポーツを例に、多様性を求める社会について検討します。障害者のスポーツの振興を具体化する方法を学びながら、共生社会の構築に向けた取り組みに障害者スポーツは何ができるのかを学生の皆さんと検討し、議論しながら、学ぶ機会とします。

到達目標

障害者に係わる政策、スポーツや健康に関連する政策を社会的観点から検討する力、障害者が社会においてスポーツなどの活動が制限されている社会背景、その課題をどのように解決できるのかを議論したいと思います。学生さんは、そうした課題を解決するために必要な知識を習得し、他の学生さんとともに議論を重ねる力を獲得してもらえればと思います。

授業計画と内容

- 第1週：イントロダクション
- 第2週：障害者とスポーツ
- 第3週：身体障害のスポーツの歴史とクラス分けに関する議論
- 第4週：身体障害の種別(障害の特性)とスポーツ(車いす使用者のスポーツ)
- 第5週：身体障害の種別(障害の特性)とスポーツ(歩行可能な障害者とスポーツ)
- 第6週：施設評価(視覚障害を事例に)
- 第7週：施設評価2
- 第8週：知的障害のスポーツの歴史と障害特性
- 第9週：知的障害とスポーツ
- 第10週：発達障害とスポーツ
- 第11週：精神障害のスポーツの歴史と障害特性
- 第12週：日本代表の選手をお招きして(当事者から学ぶこと)
- 第13週：障害者のスポーツ環境と活動の場
- 第14週：障害者のスポーツを通してインクルーシブな社会の構築のために、学生さんがいま考えて欲しいこととは

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	42% 授業内に出された課題に対し、レポートにて提出する。
平常点	28% 毎回の講義の課題に対し出されるリアクションペーパーは、出席点も含む。
その他	30% 演習課題に対するレジュメ

成績評価の方法・基準(備考)

授業内での積極的な発言や課題に対する取り組みについては、加点対象とすることもある。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

リアクションペーパーに対するコメントや解説を、次の週以降で授業内で行う。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

障害者スポーツ指導員として障害者スポーツセンターでの勤務経験あり。障害者スポーツ競技団体での役員などの経験。

実務経験に関連する授業内容

障害者スポーツ動向に関する理解を深めるとともに、障害者に対するスポーツ指導や、障害者スポーツの推進の立場から施設評価に関する知見を得ることを目的とした施設評価方法を授業内で紹介する(施設評価については実際に体験する)。

テキスト・参考文献等

授業内で資料などを示す。

参考文献

- ①実践で学ぶ! 学生の社会貢献
- ②田中暢子・松本格之祐・吉田勝光・櫻井智野風・加藤知生(編)
- ③成文堂

ISBN-10 : 4792380804

ISBN-13 : 978-4792380809

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。

科目名： 人体の構造と機能及び疾病**担当教員： 山科 満**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：水5

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-CY2-T922

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:4

更新者：AA1029

更新日時：2025-12-31 17:56:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この科目は、国家資格である公認心理師の受験のために必要な25科目のうちの1つとして開設されたものです。心理職の関与が求められる分野は保健医療分野・教育分野・司法分野・福祉分野・産業分野など多岐にわたりますが、中でも保健医療分野は公認心理師の活動が強く求められる領域です。授業は、公認心理師となった人が保健医療分野で活動する際に最低限必要となる医学知識を得ることを第1の目的として行われます。その目的に沿って、医学が実際に営まれる医療制度についても適宜言及することになります。このような医学・医療に関する知識・理解は、スポーツに打ち込む人や、身体・健康に関心がある人にとっても、現在・将来において有用なものになると思われます。

科目目的

1. 心理専門職となった人が医療現場に出た際に最低限必要となる医学知識を身につける。
2. 人生で出会う主要な病気について学び、自分や家族がその病気になったときに役立つ知識を得る。
3. 心身の健康に関する知識を学び、日々の生活を改善し、より健康的な生活を送っていきけるようになる。

到達目標

1. 身体の成り立ちを、医学的な観点から理解する。
2. 内科・小児科・整形外科・神経内科・精神科領域の代表的な疾患についての病態と治療に関する基本的な知識を得る。
3. 人生において必要と思われる健康についての考え方・知識を身につける。

授業計画と内容

- 第1回：本授業の概要について：疾病とは何か
- 第2回：症状から疾患を推測する(1)腹部症状を中心に
- 第3回：症状から疾患を推測する(2)痛みを中心に
- 第4回：細胞・組織・器官・器官系(1)消化器系、循環器系
- 第5回：細胞・組織・器官・器官系(2)呼吸器系、泌尿器系、運動系
- 第6回：こころに関わる器官系
- 第7回：子どもの発達
- 第8回：免疫について
- 第9回：生活習慣病
- 第10回：がんの理解
- 第11回：難病の理解
- 第12回：感染症の理解
- 第13回：女性特有の疾患について
- 第14回：まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業終了後、毎回記述式の小テストを課します。当日の夜までに提出してください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	50%	授業で学んだ内容が、知識としてどの程度定着しているかを確認するために、学期末に試験を行います。
レポート	0%	
平常点	50%	授業開始時に遅刻せず出席していたかを確認します。 授業終了後毎回、学んだこと・考えたことに関して記述する小テストを課します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

平常点(出席と小テスト)の合計を50点換算します。期末試験の50点を合わせて100点満点で成績評価をします。評価の基準は以下のとおりです。

S:90点以上
A:80点~89点
B:70点~79点
C:60点~69点
以上が合格です。
D:59点以下 不合格

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

精神科医として公立単科精神病院に6年、大学病院精神科に通算8年、市中クリニックに通算25年以上、保健所の精神保健相談に通算8年、社会福祉法人の嘱託医として通算20年、企業内健康管理センターの嘱託医として24年、東日本大震災被災地でのボランティア活動に14年、大学内診療所の精神科医として8年の実務経験があります。
順天堂大学浦安病院では、緩和ケア担当医として癌患者さんの臨床に携わりました。

実務経験に関連する授業内容

現場で出会った患者さんの言葉や様子を、適宜紹介していきます。受講してくださる学生の皆さんに、具体的なイメージが湧くような話しをしていくつもりです。

テキスト・参考文献等

「テキスト」
『公認心理師カリキュラム準拠 人体の構造と機能及び疾病』武田克彦・岩田淳・小林靖編著 医歯薬出版株式会社

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：健康・医療心理学**担当教員：中村 菜々子**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：月4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-PY2-T923

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:4

更新者：AA1934

更新日時：2026-01-12 18:00:0

授業形式

この科目はオンライン形式で行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

心身の健康維持・増進および疾病の治療・予防には、人の行動が大きく関与しています。これらについて心理学の観点から理解します。具体的には、1)健康における心と身体の関連、2)予防の考え方と実際の支援、3)身体疾患患者への心理的支援、4)ライフサイクルと健康心理学、の4つのテーマについて学びます。

科目目的

本授業では、1)健康における心と身体の関連、2)予防の考え方と実際の支援、3)身体疾患患者への心理的支援、4)ライフサイクルと健康心理学の4つのテーマに関して、講義と授業外の課題への取り組みをとおして学ぶことで、心理学の観点から心身の健康維持・増進および疾病の治療・予防について理解することを目的としています。

到達目標

- 1)健康における心と身体の関連について説明できる(健康の定義、QOL、ストレス理論の基礎)
- 2)予防の考え方と実際の支援について説明できる(Caplanモデルによる予防の概念、危機介入、自殺予防)
- 3)身体疾患における心理的支援について説明できる(リエゾン精神医学、慢性疾患、行動変容)
- 4)ライフサイクルと健康心理学について説明できる(ライフサイクル、労働者のメンタルヘルス、女性のメンタルヘルス)

授業計画と内容

- 第01回 健康における心と身体の関連01:授業オリエンテーション、健康の定義、QOL
- 第02回 健康における心と身体の関連02:ストレス理論の基礎
- 第03回 健康における心と身体の関連03:ストレスによる心身の不調
- 第04回 予防の考え方と支援例01:予防とは
- 第05回 予防の考え方と支援例02:予防の実例01(危機介入、自殺予防など)
- 第06回 予防の考え方と支援例03:予防の実例02(高血圧予防など)
- 第07回 身体疾患における心理的支援01:チーム医療とリエゾン精神医学
- 第08回 身体疾患における心理的支援02:慢性疾患の治療と行動変容01
- 第09回 身体疾患における心理的支援03:慢性疾患の治療と行動変容02
- 第10回 身体疾患における心理的支援04:患者さんに伝わる説明とは?行動変容におけるヘルスコミュニケーション
- 第11回 ライフサイクルと健康心理学01:ライフサイクルとは
- 第12回 ライフサイクルと健康心理学02:ライフサイクルと健康の実例01(働く人の心身健康)
- 第13回 ライフサイクルと健康心理学03:ライフサイクルと健康の実例02(女性の心身健康)
- 第14回 授業のまとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業外の学修時間を最低2時間は確保していただくことを想定した課題を出します。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 30% manaba「小テスト」機能を用いて、概ね2-3回の授業に1回試験を行ないます。小テストは指定された期限内に回答する

ことが求められます。

期末試験	0%	
レポート	10%	授業中に1回レポートを課します。
平常点	60%	1) 授業への出席 2) manabaコースニュースを期限内に確認すること 3) 各回のresponを期限内に提出し、respon回答が基準を満たすこと(一定以上の分量、内容に問題がない) 上記3点について減点方式で評価します。 優れたrespon回答内容については、加点方式で評価します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

レポート提出がない場合は、成績評価の対象としないので注意してください。
生成AIを用いて作成したレポートは、0点とします。

※2025年度と配点を変えていますので、再履修の方は気を付けてください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

講義が中心の授業ですが、受講者からの質問等にはできるだけ応え、双方向なやりとりができるよう工夫していきます。

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

臨床心理士・公認心理師として、病院、クリニック、就労支援施設、大学附属相談室等で臨床業務に携わってきました。現在も医療領域で臨床業務を行っています。

実務経験に関連する授業内容

本授業は、主に医療領域における、身体疾患患者さんとの臨床での関わりや、身体疾患患者の心理に関する心理学研究実施の経験を生かした内容となっています。

テキスト・参考文献等

<テキスト>

資料を配付します。

将来公認心理師となることを希望している受講者については、以下もテキストとしますので、授業資料と併せて読み、学びを深めてください。
宮脇稔ほか編 2025 公認心理師カリキュラム準拠 健康・医療心理学 第2版 医歯薬出版株式会社

<参考文献>

将来公認心理師となることを希望している受講者は、ブループリントにも目を通し、講義内容を適宜復習してください。

一般財団法人公認心理師試験研修センター 令和8年版公認心理師試験出題基準・ブループリント

https://www.jccpp.or.jp/download/pdf/blue_print.pdf

また、上記以外の参考文献については授業中に指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

- ※資料と動画配信によるオンデマンド授業を実施します。PCでの受講を想定して資料作成しています。
- ※一定のペースを保って受講していただくことが大切だと考えますので、授業動画・資料はその週の土曜日17時までアクセス可能、毎回のrespon提出も土曜17時に設定しています。平日に計画的な受講を行い、生活リズムを整えましょう。
- ※受講者数や受講者の理解度、質問の多さ等に合わせ、授業実施順序や内容を変更する可能性があります。
- ※教員への連絡がある場合は、個別指導(コレクション)をご利用ください。

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。

科目名: 精神疾患とその治療／精神保健学

担当教員: 柴田 応介

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 月4

配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-CY2-T924

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:57:4

更新者: AC7902

更新日時: 2026-01-09 12:27:1

授業形式

全ての授業を教室で対面で行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

精神障害の診断・治療・予防に関する基礎的知識を講義する。精神科において見られる多様な障害、それに対する治療、それらをかこむ社会・環境(家族、学校、職場、地域)、及び各種問題(虐待、トラウマ、薬物・アルコール依存、ひきこもり、自殺、認知症介護、ターミナルケアなど)をめぐる精神科医療・精神保健福祉の現状と対策について考える。

科目目的

精神医学の基礎を学び、日本の精神科臨床の趨勢についてある程度の見通しを得る。
将来精神科臨床実践に携わるかどうかにかかわらず、人間の心や人間関係、人間が織りなす社会の神秘に対する興味関心をはぐくむ。
臨床心理士・公認心理士を目指す人には、その最も基礎となる考え方・知識を身に付けてもらう。

到達目標

精神医学の基礎を学び、日本の精神科臨床の趨勢についてある程度の見通しを得る。
人間の心や人間関係、人間が織りなす社会の神秘に対する興味関心を持つ。
臨床心理士・公認心理士を目指す場合は、その最も基礎となる考え方・知識を身に付ける。

授業計画と内容

1. 精神障害とは
2. 脳と神経の科学
3. 器質性精神障害、認知症、薬物・アルコール依存症
4. 統合失調症
5. 躁うつ病(気分障害)
6. 神経症(社会不安障害、パニック障害、強迫性障害、解離など)
7. パーソナリティ障害(境界例、自己愛性障害など)
8. 発達障害(自閉性障害、ADHDなど)
9. 精神科薬物療法
10. 支持的精神療法、精神分析的精神療法
11. 家族療法、集団精神療法
12. 作業療法、デイケアなどの治療法
13. 学校・職場・地域におけるメンタルヘルス
14. 社会・行政の取り組み(精神保健福祉法、精神鑑定など)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回テキストの、前もって指定したページを、授業前に読んでおくこと。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	50%	期末に教室で筆記試験を行う。
レポート	0%	
平常点	25%	毎回授業後に、配布する用紙に質問・感想・意見を書く。
その他	25%	普段の授業におけるコミットメント。

成績評価の方法・基準(備考)

上記平常点、その他については、授業開始時に詳述する。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは「心理のための精神医学概論」(沼初枝著 ナカニシヤ出版)とする。その他参考文献は適宜指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

授業は、出席者の知識レベル、興味関心の方向によって内容を柔軟に変えていく予定である。前回は指示された教科書のページを読んでくること、および授業への積極的な関わりが望まれる。

参考URL

備考

科目名： 社会言語学特論**担当教員： 朝日 祥之**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 金2

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-LG3-U406

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:57:4

更新者：AD0151

更新日時：2026-01-14 15:02:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、言語の持つ経済性をめぐる諸問題を取り上げる。世界に7000あると言われる言語の持つ言語文化的価値は平等である一方で、その経済性は様ではない。いわゆる「英語帝国主義」な世界すら存在するほどである。この経済性は、どの言語を学習するのか、自身の方言における経済性との関係で標準語に対する評価や習得意識にも関係がある。より多く収入を得るためにどの言語を学ぶのが良いかという面でも大いに関係する。その点、世界における日本語学習者を中国語や英語の学習者との関係で位置付けることもことばの経済性が関係する。この他には、例えば、方言手ぬぐいや外国語表記の商業看板、その他、さまざまな商品は、ローカリズムと連動させた言葉の経済性と関係がある。本授業では、このような言語の持つ経済性をめぐるテーマを取り上げ、受講生などをともに、その社会的、文化的、歴史的意義について理解を深めていく。

科目目的

本科目の目的
ことばの経済性をめぐる基礎的知識を見つけるとともに、関連テーマの研究動向、研究成果、私たちの使う言葉遣いに見られる様々な特徴を知ることができる。
到達目標
自分自身が使用する言語、経済活動におけることばの機能について内省できるようになるとともに、より適切な市場評価が可能となる。
意義
ことばの経済性は日本社会における経済活動を支える主要テーマの一つである。自分自身が外国語を含めた言葉を使用することの意味、評価などについて考えられるようになる。

到達目標

言語接触に関する状況への理解を深めることができる。
外国語習得を行う目的、第一言語と外国語を使うことの意味、海外で使われている日本語の多様性などを知ることができる。
消滅の危機に瀕した言語に対する理解を深めることができる。

授業計画と内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「ことばと経済」とは
- 第3回 言葉の難易度と経済
- 第4回 経済財としての言語
- 第5回 言語景観と経済
- 第6回 国家語・公用語と経済
- 第7回 ことばの商品化
- 第8回 ネーミングと経済
- 第9回 言語話者と経済
- 第10回 外国語学習と経済
- 第11回 多言語社会と経済
- 第12回 借用と経済
- 第13回 ネットスラングと経済
- 第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	60% 本科目内容の全体的な確認
レポート	0%
平常点	40% 議論への参加, 授業参加
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

講義ではレジュメを配布するため、テキストは使用しない。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: Introduction to Social Sciences(1)**担当教員: 曹 三相**

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 金2

配当年次: 1~4年次配当

科目ナンバー: LE-SC1-WE02

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:55:5

更新者: AC8575

更新日時: 2026-01-04 10:24:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- 日本語
- ✓ 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

This course is designed to provide students with an overview of current global issues, focusing on crises faced by three key regions—namely, America, Europe, and East Asia—as well as the world at large. It aims to facilitate an understanding of “why the crisis occurs, why the crisis is so deep and broad, how the crisis affects our daily life, how this crisis will affect our future, and how we should respond to the crisis.” Students will be exposed to a diverse range of topics including American hegemony, its inequality, its political crisis, the Russia–Ukraine war, the liberal international order, European integration, Europeanization, the rise of Euroscepticism, ‘history problem’ in East Asia, China’s ascent, and climate disasters. In addition, students will acquire familiarity with key concepts and approaches developed by scholars and practitioners in social science in order to make sense of world.

科目目的

The objectives of this course are to help the student sharpen their “skills” as a critical thinker, an analyst, and an effective communicator. It is hoped that by the end of the semester you will find the course to be informative, interesting and enjoyable.

到達目標

The students will acquire familiarity with key concepts and approaches developed by scholars and practitioners in social science in order to make sense of our world. It is hoped that by the end of the semester you will find the course to be informative, interesting and enjoyable.

授業計画と内容

PART I THEORIZING THE CRISIS

1. Introduction and Overview

PART II THE END OF AMERICAN CENTURY?

2. The Road to Supercapitalism in America

Robert Reich (2008) “The Paradox” and “The Road to Supercapitalism,” in *Supercapitalism: The Transformation of Business, Democracy, and Everyday Life* (New York: Vintage), 3–14 and 50–87.

3. The Crisis of American Politics

Francis Fukuyama (2015) “America the Vetocracy,” in *Political Order and Political Decay: From the Industrial Revolution to the Globalization of Democracy* (New York: Profile Book), 488–505.

4. The End of American Century

Donald Puchala (2004) “International Theory and Cyclical History,” in *Theory & History in International Relations* (New York: Routledge), 51–72.

5. Putin’s Invasion of Ukraine and the Ending of International Orders

William Mulligan (2022) “Erosions, Ruptures, and the Ending of International Orders: Putin’s Invasion of Ukraine in Historical Perspective,” *Society*, 59: 259–267

PART III THE EUROPEAN INTEGRATION AND THE RISE OF EUROSCEPTICISM

6. History of the European Integration

Donald J. Puchala (2000) “Building Peace in Pieces: The Promise of European Unity,” in *The Global Agenda*, Charles Kegley and Eugene Wittkopf (eds.) (New York: McGraw-Hill, Inc.), 158–172.

7. Mid-term Exam

8. European Identity and Europeanization

Martin Marcussen, Thomas Risse, Daniela Engelmann–Martin, Hans Joachim Knopf and Klaus Roscher. (1999) “Constructing Europe? The

Evolution of French, British and German Nation State Identities.” Journal of European Public Policy. 6(4): 614-633.

9. The Rise of Euroscepticism

Cécile Leconte (2010) “Varieties of Euroscepticism,” in Understanding Euroscepticism (New York: Palgrave Macmillan), 43-67.

PART IV RIPE FOR RIVALRY IN EAST ASIA

10. Ripe for Rivalry in East Asia

Aaron Friedberg (1993/94) “Ripe for Rivalry: Prospects for Peace in a Multipolar Asia,” International Security, 18(3): 5-33.

11. History Problem: Sorry Seems to be the Hardest Word

Jennifer Lind (2009) “The Perils of Apology: What Japan Shouldn’t Learn from Germany,” Foreign Affairs, 88(3): 132-146.

12. Will China Rule East Asia?

Sam-Sang Jo (2015) “The Blind Men, the Elephant and Regional Order in Northeast Asia: Towards a New Conceptualization,” Japanese Journal of Political Science, 10(4): 507-531.

PART V CLIMATE CRISIS

13. Climate Disaster

Bill Gates (2022) “Introduction: 52 Billion to Zero” and “What Each of Us can Do,” in How to Avoid a Climate Disaster: The Solutions We Have and the Breakthroughs We Need (London: Penguin Books Ltd).

14. Final Exam

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

Students are expected to engage in a fair amount of reading and will be evaluated through class participation and written assignments. The intent behind these requirements is to have you study and think about the course material throughout the semester in order to maximize your ability to learn and grow as a student.

In order to get the most out of class, you must be prepared when you come to class. Students are required to complete the readings prior to class meetings and to come to class ready to discuss them. I expect everyone to participate actively in the discussion of the day. Every student should be able to summarize, analyze, synthesize, and evaluate each assigned reading by addressing the following questions:

- i. What is the author’s purpose?
- ii. What is the basic theme(s) or argument(s) of the reading?
- iii. What are the most important historical events, information, concepts, etc. discussed in the reading?
- iv. How does this reading relate to the other readings and to the central themes of the course?

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	40%	Each exam will consist of definition of concepts or terms and short essays. Exams will cover the materials presented in lectures, discussions, and readings. You should demonstrate the knowledge you have acquired in the assigned readings and class discussions, as well as your thoughtful consideration and analysis of the material.
期末試験	40%	Each exam will consist of definition of concepts or terms and short essays. Exams will cover the materials presented in lectures, discussions, and readings. You should demonstrate the knowledge you have acquired in the assigned readings and class discussions, as well as your thoughtful consideration and analysis of the material.
レポート	0%	
平常点	20%	In order to get the most out of class, you must be prepared when you come to class.
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

Your grade will be based, not on how well you do compared to others in the class, but on the quality of substantive knowledge, quality of analysis, and effective communication demonstrated—in other words, the level of understanding demonstrated. S represents “excellence”, A represents “good”; Grades below B (C+, C, D+, D, and F) indicate that the level of work in the course is below the level expected. Therefore, you should work together and help each other out.

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

Provide comments

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

The class will be structured around what I call a class dialogue in which information, knowledge, and thought will be generated through lecture, discussion and, in particular, the Socratic method. I will often play the role of provocateur and advocate to stimulate participation. The class dialogue emphasizes the importance of student participation and active learning as a means to improve one's skills, interest, information, knowledge, and, ultimately, understanding. In essence, class discussions will consist of an active exchange between the student and professor.

授業におけるICTの活用方法

クlickカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

Sam-Sang Jo received Ph.D. in international studies from the University of South Carolina. He was visiting scholar of East-West Center in Hawaii, Chinese Academy of Social Science, University of Cambridge, Fudan University, Tohoku University, and University of Tokyo. He was also visiting scholar of East-West Center in Hawaii, Chinese Academy of Social Science, University of Cambridge, Fudan University, Tohoku University, and University of Tokyo. He has taken courses, conducted research in, or otherwise visited for professional or personal purposes, America, Britain, France, Germany, Denmark, Sweden, Austria, Russia, Poland, Hungary, Belgium, Switzerland, Italy, China, South Korea, Taiwan, Hong Kong, Indonesia and Costa Rica. His teaching and research interests cover regional integration, international cooperation, Western European politics, East Asian politics, comparative analysis of Europe and East Asia, and US foreign policy. He is the author of *The Clash of Ideologies: American Liberal Democracy versus Socialism with Chinese Characteristics* (Palgrave Macmillan, 2026) and *European Myths* (Rowman & Littlefield/University Press of America 2007). His publications have appeared in such scholarly journals as *The Chinese Journal of International Politics*, *Asian Perspective*, *Japanese Journal of Political Science*, *Asia Europe Journal*, *Journal of Contemporary European Studies*, *Northeast Asian Studies* (Tohoku University), *Korea Observer*, *Korean Journal of Political Science*, *中央大学 社会科学研究所年報*, and *中央大学 紀要 社会学・社会情報学*, among others. He has received several merit-based fellowships, awards, grants and prizes.

実務経験に関連する授業内容

Sam-Sang Jo is currently teaching at Chuo University and International Christian University as well. He had taught at Graduate School of International Relations, Pusan National University, Graduate School of International Relations and Diplomacy, Beijing Foreign Studies University, Monmouth College and University of South Carolina.

テキスト・参考文献等

A course packet containing all assigned articles, book chapters, and the handouts will be posted on Manaba.

オフィスアワー

その他特記事項

TEACHING PHILOSOPHY

The class will be structured around what I call a class dialogue in which information, knowledge, and thought will be generated through lecture, discussion and, in particular, the Socratic method. I will often play the role of provocateur and advocate to stimulate participation. The class dialogue emphasizes the importance of student participation and active learning as a means to improve one's skills, interest, information, knowledge, and, ultimately, understanding. In essence, class discussions will consist of an active exchange between the student and professor.

参考URL

備考